

2025年度事業計画

公益財団法人 味の素ファンデーション



2025/3/12

© 2025 The Ajinomoto Foundation

THE
AJINOMOTO
FOUNDATION¹

1. 基本方針
2. 2025年度 全体予算
3. 事務局活動（トピックスと予定）
4. 2025年度目標（2024年度レビュー含む）
 - 1) 食の力による防災・復興支援事業
 - 2) 低所得国栄養改善事業
（ガーナ栄養改善プロジェクト（GNIP））
 - 3) 食と栄養支援事業（AINプログラム）
 - 4) 低所得国での栄養士育成プロジェクト
（ベトナム栄養制度創設プロジェクト（VINEP））

1. ミッション：

「食と栄養」関連事業を通じて、世界の国々や地域の発展およびそこで生きる人々の明るい未来の創造に貢献する

2. ビジョン

多様な組織連携による新しい価値創造の**要**となる

3. 行動指針：

- ① 常に公益のために、考え、行動する
- ② 現実を直視し、強い情熱と結果へのこだわりを持ち挑戦する
- ③ 人・歴史・文化を尊重し、寄り添いながらコミュニティの発展を後押しする
- ④ 社会からの信頼を得るため、常に環境適応し、進化し続ける
- ⑤ 事業で得た知見や学術評価の結果を社会に還元する

2025年度 基本方針 (全体予算)

項目		2024年度 予算	2024年度 見込み	2025年度 予算	予算比 2024/2025	予算比・見込比 2024/2025
A 公益 目的 事業	食の力による防災支援・被災地支援事業 (旧被災地復興応援事業)	66,539,092	69,230,553	90,409,499	136%	131%
	ガーナ栄養改善プロジェクト (GNIP)	224,398,641	256,083,828	234,580,844	105%	92%
	食と栄養支援事業 (AIN)	55,741,545	51,218,975	62,358,747	112%	122%
	ベトナム栄養制度創設プロジェクト (VINEP)	12,528,111	8,184,435	9,467,677	76%	116%
B 法人費用		51,058,929	46,275,560	52,348,948	103%	113%
合計		410,266,318	430,993,350	449,165,715	109%	104%

105.1%

※除 減価償却費

2024年度トピックス

1. 評議員・理事・監事 役員全員改選
5月の理事会（書面決議）評議員選定委員会（書面決議）、6月の評議員会・理事会を経て全役員の改選を実施。理事2名が交代、他は継続。
2. 定時評議員会・理事会運営
2024年6月に定時評議員会・理事会を開催。また5月、7月、2月に書面決議の理事会を計4回実施。
3. 被災地復興応援事業の公益認定変更申請完遂
2023年1月から開始した変更申請手続きにつき、8月8日付けで内閣総理大臣名での認定通知書を受領。新事業名は食の力による防災支援・復興支援事業。
HP等の更新も11月末で完了。
4. 人事異動に伴う体制変更への対応(24/7～)
人事異動に伴う新規メンバーの底上げ支援として、月次会議や委員会への参加、一部事務局による業務分担、日々フォロー実施。

2025年度の主な予定

1. 評議員会・理事会の運営
2025年6月の定時評議員会、理事会、2026年3月の理事会の他、議案に沿って適宜開催する。
2. 人事異動者・ガーナ駐在者支援
7/1付け人事異動者への支援を行う。
ガーナ駐在者への支援も継続する。
3. 年次合宿の開催(25/10)
2025年度の間レビューと2026年度の事業計画検討議論のための合宿を行う。
4. 研修機会の提供（随時）
事業メンバー向けに生産性や創出価値を高めるための研修機会等の提供を行う。

2024年度トピックス

5. 年次合宿の開催（24/10/10-11）

TAF全員参加の合宿を実施。事業の生産性・戦略性向上のため、2024年度中間レビューと、2025年度事業計画検討の議論を行った（ロジックモデル活用）。初めての試みとして中村正和理事を招聘、「ロジックモデルに魂を入れる～健康政策からの教訓」と題したご講演を頂いた。

6. 生成AI勉強会（24/11）やSNS運営サポートの実施
事業支援の一環として11～12月にかけて実施。

7. ガーナへの支援の質向上（常時）

月次会議の常設化、出張、駐在者帰国時の全体会議設定を通じコミュニケーション強化、事務局の現場支援の質向上を図った。

8. 中長期視点での財団の在り方 検討会 開催（25/1）
戦略、財源、人材の在り方につき全員参加での議論を実施。

2025年度の主な予定

5. 広報・各ステークホルダーとのコミュニケーション（常時）
TAFの活動状況をより理解して頂き、一層の参画やご支援を頂くために丁寧な情報発信やコミュニケーションを実施する。また、将来の役員・委員会委員候補の探索のため、情報収集やネットワーク構築を行う。

6. 事業サポートの強化
事業への理解を深め、適切な支援を常時行える体制を継続的に築いていく。

7. 新事業領域の検討開始
TAFに理念に合った新事業探索を開始する。

1. 事業目的

(1) 地域の自助・互助力の向上：

- 1) 住民の心と体の健康リスクの低減、健康寿命の延伸
- 2) 地域の社会関係資本の増強、コミュニティの活性化
- 3) (被災地のみ) ①②を通じた個人と地域におけるより良い復興の実現

(2) 共助・公助力の向上と、官民連携力の向上：

発災時、被災者への食と栄養支援が重要視され、復興までの長期視点で支援がされる。

2024年度 事業名称変更手続き完了

食の力による防災支援・復興支援事業

食の力による防災支援・復興支援事業 概要

自助

互助

共助

公助

料理教室開催者向け研修会・講習会

どんなときも♪レシピ講習会

たべぷろ講演会・ワークショップ

年間110回以上実施
(東北・能登半島)

年間20回前後実施
(全国)



東北・能登
料理教室運営支援



全国
食と栄養領域啓発活動

I. 食と栄養を通じた地域の自助・互助力の向上

- 1 地域に根差し、食を手段として住民の支援活動を行う組織の後方支援

赤エプロン

ふれあいの 赤いエプロンプロジェクト



I. 食と栄養を通じた地域の自助・互助力の向上

- 1 地域に根差し、食を手段として住民の支援活動を行う組織の後方支援

3つの講演パッケージ

地域の支援団体向け後方支援

1) 料理教室運営研修会

→ 4-12月累積 38回

46

2) 赤エブ講演会

→ 4-12月累積 10回

7

3) どんなときも♪レシピ集 講習会【新】

→ 4-12月累積 41回

52

【3種の講演パッケージ計】

105

- 24年度実施回数目標：60回
- 4-12月累計：89回 (対目標 進捗率 148%)
- 24年度見込：117回 (対目標 196%)

研修会



講演会



講習会



■岩手県北上市：
行政栄養士がTAFの代わりに講師を務めることにトライ



TAF以外でも実施できる簡易講習パッケージの開発検討へ
(25年度テーマ)

赤エブ研修会よりもライトなパッケージであるため、TAF（山田）ではなくても講師は可能ではないか？と考え、数回TAFの講演を聞いたことのある市の行政栄養士に講演の一部を担当していただいた

「モノ」支援 配布実績 (24年4～25年2月累計)

	A:指標 (②は前年)	B:年度累計	進捗率 (A/B)
①ありがとうレシピ集	15,000	13,863	92%
②栄養バランスホワイトボード	16,117	17,731	110%
③どんなときも♪レシピ集 (新・旧合算)	20,000	36,903	185%



学術機関と連携:まとめようPJTの継続

まとめよう
PJ

2024年度
基本戦略

1. TAF事業、及び自主開催パートナーの活動のアウトカムのエビデンス化サポート
2. 研究成果の発信活動の拡大（ブース出展@健康教育学会、公衆衛生学会※日本衛生学会も検討）

まとめよう
プロジェクト



木下先生



黒田先生



久地井先生



山田：財団



三浦：財団



原：財団

学術機関と連携:まとめようPJの継続

1. 主な活動実績

(1) 10/29~10/31 日本公衆衛生学会 @札幌

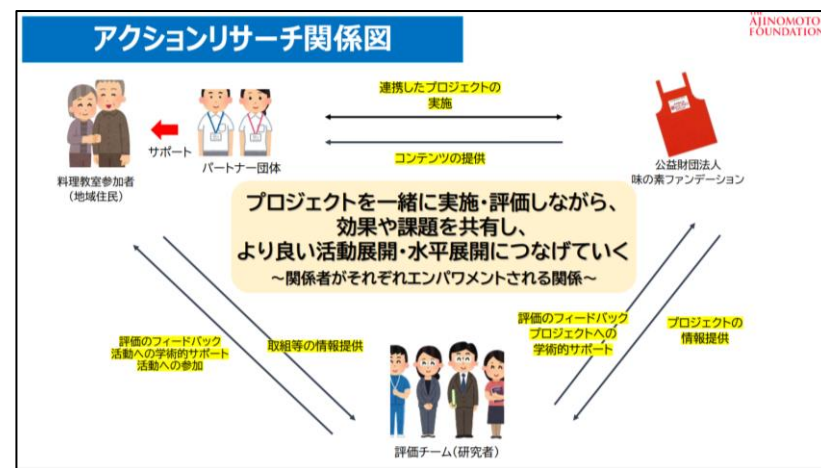
シンポジウム

「地域の社会課題の解決にアクションリサーチをどのように活用するか」
の事例としてTAFも登壇（黒田先生、原）

テーマ：東北復興応援「ふれあいの赤いエプロンプロジェクト」による
地域との連携活動

～実践者視点でのアクションリサーチのメリット～

約200名が参加。今後、アクションリサーチへの関心の高まりに期待。



アクションリサーチとは：実践者が現場で問題を解決しながら、その過程を研究し改善策を導く手法

学術機関と連携:まとめようPJTの継続

10/29~10/31 日本公衆衛生学会 @札幌

ブース出展

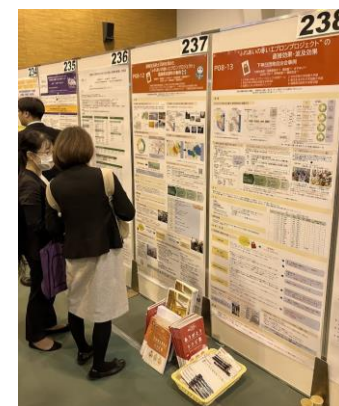
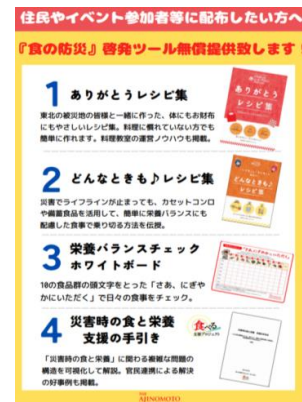
「どんなときも♪レシピ集」を中心に各種ツールの普及

- ・ 3日間で4種のツール合計で約1,300部を配布
- ・ 行政や大学等、イベント使用のため1,250部（15件）を郵送

ポスター発表

- ・ 「ふれあいの赤いエプロンプロジェクト」の波及効果
下神白団地自治会事例（久地井先生）
- ・ 避難住民同士の絆を深めた「ふれあいの赤いエプロンプロジェクト」
福島県双葉町の事例【安部様（福島県双葉町）】

まとめよう
PJ



学術機関と連携:まとめようPJTの継続

まとめよう
PJ

まとめようPJTチーム 受託研究中間報告会（12/3 オンライン）

【24年度研究中間レビュー】

- ・ 学会発表：7月 健康教育学会、11月公衆衛生学会
- ・ 論文化：6テーマ進捗中
（社協4事例、双葉町、下神白FGI、福島自治会長、食品分析等）
- ・ 下神白団地アンケート調査結果続報（年代別・性別）
- ・ 料理教室研修会（後方支援）のアウトカム測定：3月～FGI（7ヶ所）開始へ

【今後の研究計画の方向性のすり合わせ】

- ・ 25年度：料理教室研修会（後方支援）のアウトカム測定
→ 受講した支援者（食改等）にどのような行動変容があったかを
確認し、改善に繋げる
- ・ 26年度：（仮）どんなときも♪レシピ集 評価
→ アンケートの回答を26年3月の冊子のリバイス内容の検討に活用



木下先生 黒田先生 久地井先生

学術機関と連携:まとめようPJの継続

国際栄養学会議 @パリ ※4年に1回開催

開催期間：2025年8月24日（日）～29日（金）

対応：【口頭発表】

①赤エブ全体評価&事例紹介（木下先生）

②ありがとうレシピ集について（三浦）

→木下先生と連携し、抄録作成中

【ブース出展】

①、②の資料掲示&ありがとうレシピ集、
どんなときも♪レシピ集の案内 →出展申請済



IUNS-ICN 2025

International Congress of Nutrition
24-29 August 2025 | Paris, France

SUSTAINABLE FOOD FOR GLOBAL HEALTH



II. 食と栄養支援における共助・公助力の向上、 官民連携仕組み事例づくりリーダ・コーディネーター・後方伴走支援の実施

2024
年度
基本
戦略

1) 官民連携の推進

- (a) たべぷろ手引きを活用した食の防災啓発&地域の官民ネットワーク・仕組作り
- (b) 市町村行政に対し、『食の防災の仕組構築進捗チェックリスト』も参考に地域の仕組作りを進めるよう提言を行う

2) 共助実行力と主体性のある支援者（企業、団体、組織）の発掘と連携 重点ターゲット：生団連（→食品関連産業界）、日本財団、生協等

食べる支援
プロジェクト



原：財団



食べる支援プロジェクトとは：
災害時の「食と栄養」の問題の解決を目指す
官・民・学連携による多職種・多組織連携プラットフォーム

「食の防災」啓発講演&ワークショップ活動（目的：地域の官民連携力向上）

講演

- ・ 災害時の食の実態、課題
- ・ 官民連携の重要性を認識



ワークショップ

- ・ 備えを**考える機会**
- ・ いつもから**地域で官民が繋がる**きっかけ



たべぷろ講演&ワークショップ開催リスト（24年4~11月）

年度	開催年月	都道府県	エリア/単位	主催		イベント・取り組み	講演	WS	参加者	
					行政					
1	24年度	2024年6月	沖縄県	—	琉球調理製菓専門学校		琉球調理製菓専門学校「災害と食」講話	●	●	75
2	24年度	2024年6月	宮城県	登米市	宮城県登米市栄養士会	●	宮城県登米市栄養士会 総会時研修会	●	●	29
3	24年度	2024年7月	埼玉県	県域	埼玉県×子ども食堂ネットワーク	●	埼玉県×子ども食堂ネットワーク 食の防災シンポジウム	●	●	70
4	24年度	2024年7月	神奈川県	横浜市港南区	横浜市港南区食改	●	横浜市港南区食改 総会時研修会	●		60
5	24年度	2024年8月	埼玉県	新座市	埼玉県危機管理課×立教大学	●	埼玉県×立教大学 「防災キャンプ」	●		70
6	24年度	2024年9月	山形県	庄内地域	山形県庄内保健所	●	山形県庄内保健所研修会	●	●	137
7	24年度	2024年9月	千葉県	市川市	千葉縣市川保健所管内栄養士会	●	千葉縣市川保健所管内栄養士会 研修会	●		60
8	24年度	2024年10月	岩手県	大船渡市	大船渡支部食生活改善推進員協議会	●	大船渡支部食生活改善推進員 交流研修会	●	●	40
9	24年度	2024年10月	全国	全国	内閣府・食べる支援プロジェクト(たべぷろ)	●	ぼうさいこくたい2024 セッション	●		58
10	24年度	2024年10月	山口県	県域	山口県赤十字奉仕団		山口県赤十字奉仕団中堅団員研修会	●		50
11	24年度	2024年11月	岩手県	一関市	岩手県一関市 東山地域	●	東山地域 自主防災組織連絡協議会研修会	●	●	40
						9		11	6	689

24年度累計 : 開催数11回、参加人数689人

①こども食堂防災シンポジウム in埼玉県にて「食の防災」をテーマに講演&ワークショップを実施【7/9】

民間（子ども食堂・キッチンカー・企業 等）

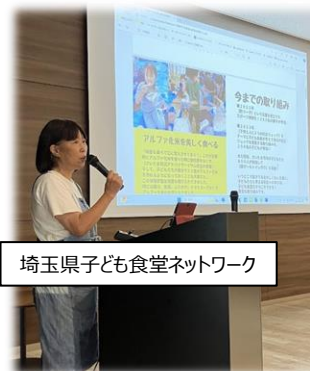


行政（県）

- 子ども食堂運営団体の他、埼玉県危機管理課等の県庁職員、市町職員、社協、地域の企業（ダイドードリンコ等）、一般参加者も含め幅広い属性の方々、計70人が参加
- TAFの他、子ども食堂関連団体（むずびえ、宇和島グランマ、埼玉県子ども食堂ネットワーク）、埼玉県危機管理課が登壇
- 試食タイムにはキッチンカー事業者がアルファ化米のアレンジレシピ（トマトリゾット等）で災害時を体感



埼玉県 危機管理課

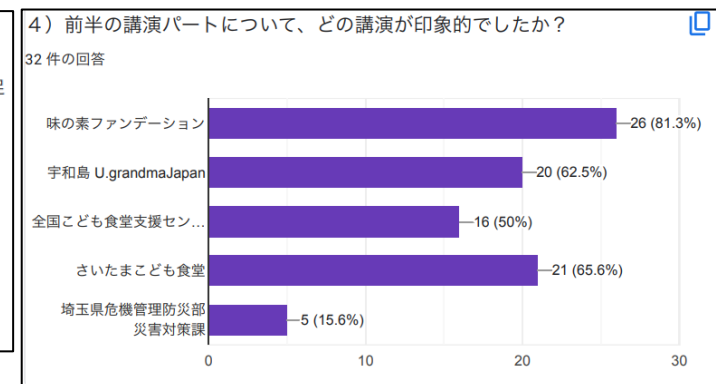
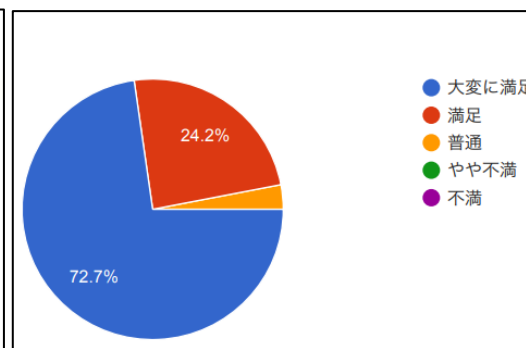
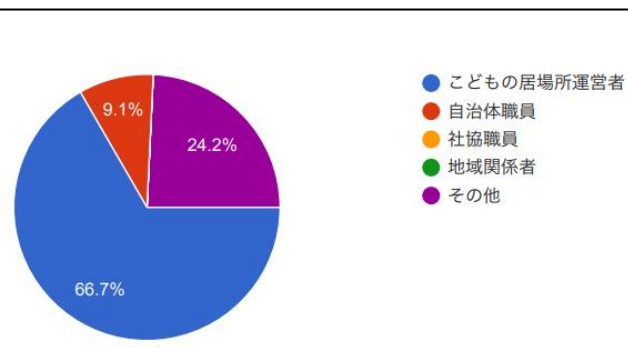


埼玉県子ども食堂ネットワーク



①こども食堂防災シンポジウム in埼玉県にて 「食の防災」をテーマに講演&ワークショップを実施【7/9】

- 【事後アンケート：アウトカム（行動・態度変容）】
- 災害がおきてからではなく、日々の意識・準備が大切だと思いました
- フードパントリーの活動が防災に活かせるしくみづくりを考えていきたい
- 市で開催予定の子どもの居場所と防災を考えるイベントに活かしたい
- ワークショップは行政、企業、こども食堂関係者のメンバーそれぞれの立場から、意見交換できて良かった
- 3食アルファ化米を食べ続けるのは大変、、、というお話も聞き、考えさせられました。メニューによってはとてもおいしく食べられると感じた（アルファ化米のアレンジレシピ（トマトリゾット））



参考：こども食堂と食の防災の親和性

日頃から地域とのつながりがある

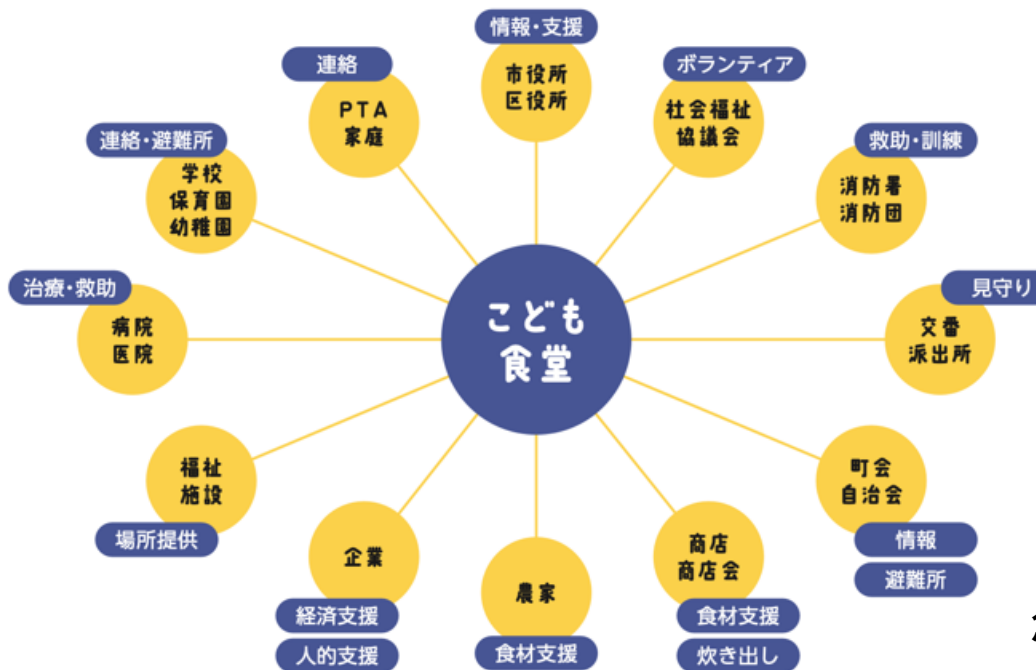
衛生管理や大量調理ができる

多世代交流の場となっている

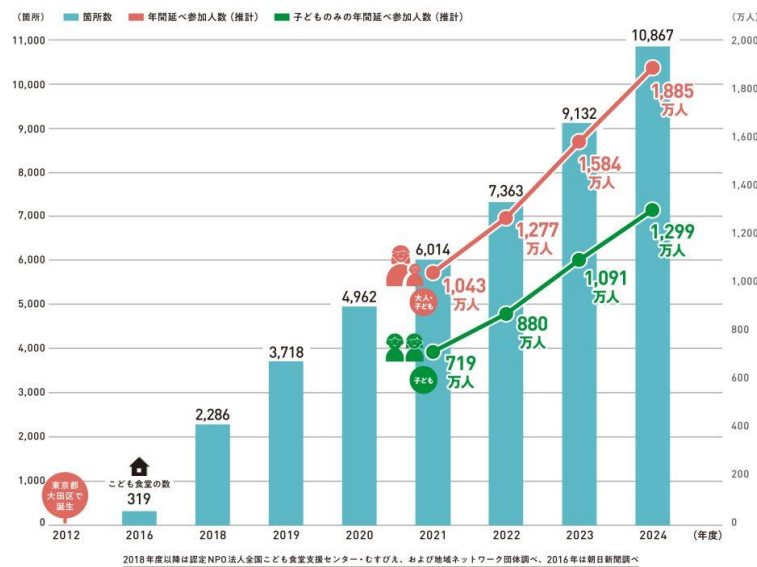
継続したボランティア活動

支援の担い手が若い点も大きな特徴であり、期待値が高い

こども食堂が地域の防災拠点に



子ども食堂の数



急増中、2024年度には10,000カ所を突破！

図表出展：認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ様

トピックス：防災士ルートの開拓

防災士研修センター様からのレポート

防災士研修講座 東京1月土日コース 会場報告

開催日時：2025年1月11日（土）～12日（日）

研修会場：砂防会館シェーンバッハ・サポー

砂防会館入口



受講者情報

1/11 250名、1/12 300名受講（赤十字特例受講者加わる）。

地方議員、局アナ、気象予報士、保険関係、土木関係、
大学職員、自主防災組織委員、一般住民等が受講



2025/3/12

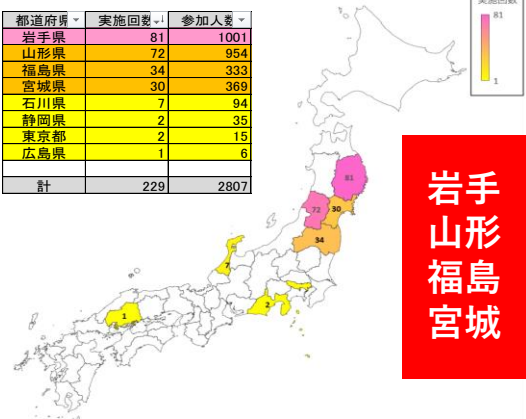
© 2025 The Ajinomoto Foundation

食の力による防災支援・復興支援事業 概要

講演会、研修会、講習会 2020年度以降の累積実績表

料理教室研修会 県別実施回数

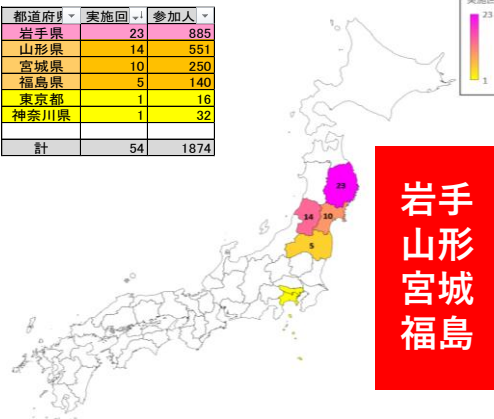
都道府県	実施回数	参加人数
岩手県	81	1001
山形県	72	954
福島県	34	333
宮城県	30	369
石川県	7	94
静岡県	2	35
東京都	2	15
広島県	1	6
計	229	2807



岩手
山形
福島
宮城

赤エブ講演会 県別実施回数

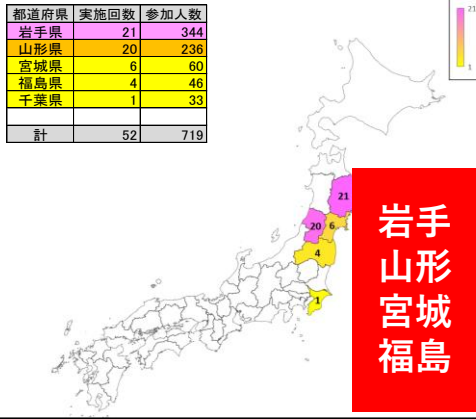
都道府県	実施回数	参加人数
岩手県	23	885
山形県	14	551
宮城県	10	250
福島県	5	140
東京都	1	16
神奈川県	1	32
計	54	1874



岩手
山形
宮城
福島

どんなときもレシピ講習会 県別実施回数

都道府県	実施回数	参加人数
岩手県	21	344
山形県	20	236
宮城県	6	60
福島県	4	46
千葉県	1	33
計	52	719



岩手
山形
宮城
福島

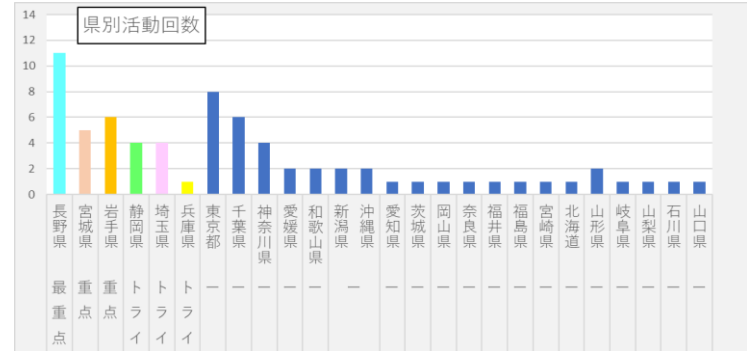
更新日: 2025年1月末

3種パッケージ合計

都道府県	実施回数	参加人数
岩手県	125	2230
山形県	106	1741
宮城県	50	643
福島県	39	555
東京都	3	31
神奈川県	1	32
千葉県	1	33
静岡県	2	35
広島県	1	6
計	328	5306

たべぶろ講演 県別実施回数

都道府県	実施回数	参加人数	
最重点	長野県	11	648
重点	宮城県	5	300
重点	岩手県	6	296
トライ	静岡県	4	368
トライ	埼玉県	4	280
トライ	兵庫県	1	0
—	東京都	8	512
—	千葉県	6	323
—	神奈川県	4	175
—	愛媛県	2	112
—	和歌山県	2	140
—	新潟県	2	219
—	沖縄県	2	99
—	愛知県	1	30
—	茨城県	1	70
—	岡山県	1	48
—	奈良県	1	43
—	福井県	1	50
—	福島県	1	16
—	宮崎県	1	52
—	北海道	1	40
—	山形県	2	137
—	岐阜県	1	69
—	山梨県	1	95
—	石川県	1	0
—	山口県	1	50
—	全国	19	854
計	90	5026	



長野
宮城
岩手
静岡
埼玉
兵庫

Ⅲ. 住民の食の防災支援活動に活かせるコミュニケーションツール

コミュニケーション
ツール



三浦：財団

YouTube



1. 「どんなときも♪レシピ集」冊子完成（24年9月）

いつも

栄養バランスチェック
ホワイトボード



累計約**71,000部**
(2019年4月～)



累計約**80,000部**
(2021年4月～)

仮版



累計約**23,000部**
(2023年10月～)

もしも



「もしも」の自助・互助
食の防災冊子

コンセプト：

ライフラインが止まってしまっても
カセットコンロや水の備えがあれば、
缶詰等の日持ちする食品を活用
して、簡単に、栄養バランスのよい
食事が作れる

(=自助力の向上を図る)

【目的】

- 食の備えを自分ごととして感じて
第1歩を踏み出すきっかけとする

【ターゲット】

- 防災の大切さはわかっているけど、
重い腰があがらない人
- 料理があまり得意ではない人
- 地域で食の備えを薦めていきたい
組織・団体

【コンテンツ】

- ① どんなときも♪ レシピ
- ② 「もしも」のお役立ち情報
- ③ 被災者の体験談（赤エプ） 等

自助・互助

共助・公助

災害時の食と栄養 支援の手引き

～心と体の健康をつくる 正しい、適切な食生活支援への導線と
責任連携をすすめるために～

「災害時の食と栄養
支援の手引き」

累計約**30,000部**
(2021年10月～)

1. 「どんなときも♪レシピ集」冊子完成（24年9月末）



- 内容は大きく3本立ての構成
- 引き合いが殺到中！
- 初版の2万部が早くも無くなりかけ、
- →急ぎ5万部増刷へ

どんなときも♪レシピ集 コラム掲載者・関係者が伝道者に

1. 宮城県大崎高等学校 家庭科教諭 堀越先生

- ・宮城県内の全家庭科教諭への配布
- ・学校の図書室、地域の図書館にも配布
- ・11月20日『未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム』で220部配布



2. 岩手県釜石市保健福祉部

- ・釜石市食生活改善推進員への配布
- ・釜石市で開催されるイベント「健康づくりの集い」で食改さんによる「桜えびと揚げ玉のおにぎり」の実演とともに配布



3. 宮城県石巻市 木の屋石巻水産 鈴木様

- ・全国のお客様にお買い上げいただいた缶詰商品とセットで「どんなときも♪レシピ集」を1,000部配布へ



4. 福島県双葉郡富岡町 元おだがいさまセンター 吉田様

- ・支援者向けの語りべ活動の中で配布予定
- (配布対象福島県安達地方市町村議員、栃木県教育委員会、名古屋シンポジウム等)



5. 一般社団法人 LFAJapan (食物アレルギー患者団体)

- ・Instagram (フォロワー数5,192) にて、TAFの取り組みやレシピ集について投稿
- ・11月30日『地域で考える防災講演in広島』にて申し込み方法のチラシとセットで配布



未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム

日時：2024年11月20日(水)
10:00~16:00(9:00受付開始)
会場：東北大学百年記念会館 川内萩ホール
(宮城県仙台市青葉区川内40)

- 参加対象
- (1) 教員や学生および保護者、校長先生、校長先生、校長先生、校長先生
 - (2) 関係機関(自治体、教育委員会、学校、NPO、市民団体、関係機関)
 - (3) 東北・関東2府県教育関係者(校長先生、校長先生)
 - (4) 学校PTA役員
 - (5) 学校関係者(教職員、校長先生、校長先生)
 - (6) 関係機関(関係機関)
 - (7) 関係機関(関係機関)

プログラム

9:00	受付開始	14:40	休憩
10:00	開会式	14:50	懇談会
10:15	基調講演		小休憩
11:35	パネルディスカッション		小休憩
11:50	昼食	15:30	懇談会
13:10	基調講演	15:50	閉会式

主催：東北大学百年記念会館
協賛：関係機関
お問い合わせ先：東北大学百年記念会館 川内萩ホール
TEL: 022-211-3669
E-MAIL: lfa@lfa-japan.org

反響が想像以上に大きく、ご評価もいただけており、25年度はこの冊子を広く普及させていくことを重点テーマとする



YouTube動画： どんなときも♪レシピ 調理動画

【災害時にも役立つ】「どんなときも♪レシピ」をご紹介 ▶ すべて再生

いつもの食事で、もしも（災害時）でも、美味しくヘルシーに、簡単に作れるレシピを栄養士が開発しました。その名も「どんなときも♪レシピ」。動画でご紹介していきます。



たくあんと海苔の韓国風おにぎり【どんなときも♪レシ...

(公財)味の素ファンデーション
481 回視聴・1 か月前

大豆缶とじゃこのカリカリ揚げ【どんなときも♪レシピ】

(公財)味の素ファンデーション
2897 回視聴・2 か月前

切り干し大根とさきいかのさっぱり和え【どんなときも♪...

(公財)味の素ファンデーション
655 回視聴・2 か月前



火を使わず和えるだけ!
缶詰・ストック野菜を使ったレシピ

調理レベル ★☆☆

栄養バランス

エネルギー 159kcal
たんぱく質 11.1g
食塩相当量 0.5g

大豆缶とツナのマリネサラダ

「どんなときも♪レシピ集」冊子のQRコードから動画で確認できる



YouTube動画：ご飯の炊き方・ショート動画



(公財) 味の素ファンデーション

@theajinomoto.foundation · チャンネル登録者数 630人 · 136本の動画
味の素ファンデーションの公式YouTubeチャンネルです。...さらに表示
x.com/ajinomoto_TAF · 他1件のリンク

登録済み



炊飯器を使わない！美味しいご飯の炊き方4選【どんなときもレシピ】

1855 回視聴 · 5 か月前



【どんなときも】ご飯が炊ける】鍋編

5890 回視聴 · 6 か月前

動画へ

【どんなときも】ご飯が炊ける】鍋編



【旬野菜のさわやかサラダ】マヨネーズ&レ...

9521 回視聴



【山形芋煮】とろける里芋と牛肉の旨味。栄...

8595 回視聴



【ピーマンの肉詰め】しょうがが美味しさの...

7921 回視聴



【アスパラの肉巻き つくね】お弁当のおかず...

6526 回視聴



【厚揚げのひき肉炒め】#料理 #簡単レシピ...

3528 回視聴



【青菜ときのこのツナ和え】野菜・きのこの...

3165 回視聴



【ゆで鶏の香味だれ】簡単ねぎだれが絶品!!...

2557 回視聴



【夏野菜の焼き浸し】インスタ映え!!カラフ...

2149 回視聴



【揚げないカリカリ大学芋】#さつまいも #...

2155 回視聴



【食品にどれくらいの塩分が入っている?】...



【一日の塩分摂取目標量は?】適塩、減塩に...

YouTube動画： 料理教室 自主開催レポート



【石倉団地料理教室】開催風景



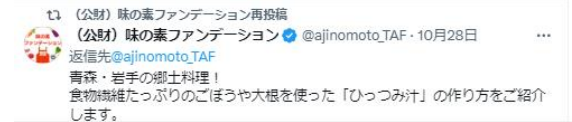
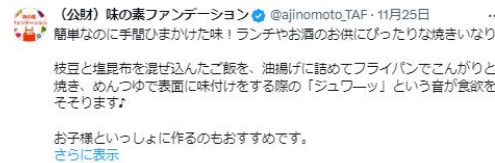
Google検索の上位に表示されていることにより過去の動画の再生回数が急増



「厚揚げ」「えのき」の検索ワードで動画を検索すると、上から2番目に表示される！

フォロワーが44人増加しました			
厚揚げとえのきのあんかけが、Google検索の上位に載るようになり、急上昇しました。			
揚げない大学芋が再燃して視聴回数を伸ばしました。			
どんなときも鍋でご飯と、電子レンジでお粥が、トップ2を占めています。			
インプレッションのクリック率が少し改善しました。			
どんなときもレシピはインプレッションが多くなる傾向があり、アルゴリズムが優良コンテンツとして認知しているようです。			

X (旧Twitter)



IV. 能登半島地震 被災地支援活動

2024年1月1日16:06 石川県能登地方でマグニチュード7.6、最大震度7の地震発生
 ・死者数 : 462人 (うち災害関連死: 235人<50%超>) ※2024年11月26日時点
 ・住宅被害 : 8万1242棟 (全壊: 8,221棟、半壊: 1万6584棟)

- 1) 半島の先端を震源とした地震であったことで支援の手が届きにくく、さらにライフライン (特に水道) の復旧がかなか進まなかったことで被災地の「食と栄養」の課題が顕著に現れてしまった、 ※日本国土の約10%は半島
- 2) 高齢化率 (65歳以上) 奥能登地域: 49.6% 全国: 28.8%
- 3) 「家屋の倒壊」、「火災」、「津波」、「土砂崩れ・道路の寸断」 = 阪神・淡路大震災と東日本大震災の縮図、、、
- 4) 仮設住宅 : 着工戸数 6,882戸、完成戸数 6,671戸 ※進捗率97%
- 5) 豪雨被害 : 9月20日からの大雨による水害・土砂災害が発生。死者15人、負傷者47人。輪島市、珠洲市を中心に再び断水の被害も発生。



輪島市 宅田町第2団地

災害後のフェーズによる支援内容の移行

引用： 復興庁「ボランティア、NPOとの協働について」資料から抜粋

発災直後	避難所	仮設住宅	災害公営住宅/ 住まいの定着期
搜索活動、救出、救命、避難、がれき撤去・片付け、泥出し、炊き出し等	がれき撤去・片付け、泥出し、炊き出し、食料・水の確保、安否確認、健康管理、介護・介助、避難所運営支援、入浴支援等	引越支援、仮設住宅での生活支援、健康管理、孤立防止、見守り・訪問活動、サロン活動、コミュニティ再生活動、買物支援等	引越支援、健康管理、コミュニティ再生活動、まちづくり支援、孤立防止、見守り・訪問活動、サロン活動、買物支援、伝統・文化復興活動等

急性期の支援（1～3月）

民間ルートによる**食糧支援物資**

- ・栄養啓発**情報ツール**の提供



現在の支援（7月～）

- ・**地域コミュニティ再生支援**
- ・**サロン活動支援** ・**孤立防止**

地域コミュニティ再生 後方支援のご提案

能登支援

復旧・復興へのフェーズを見据え、水道の復旧と仮設住宅への入居が進んできたタイミング（7月以降）で

『地域コミュニティ再生』への後方支援ができないか検討

【ポイント】

東日本大震災

→仮設住宅入居の住民向け

能登半島地震

→支援者（食改等）向け

提案内容

行政や社協、食改等が料理教室やサロン活動を検討される際に、

- ①料理教室の研修会：ノウハウや衛生面の注意点
→山田さん講演パッケージあり
- ②調理器具の寄付 ※継続して料理教室等を開催される場合



- ③サロン等を継続される場への「スティックドリンクバー」の協賛
のお繋ぎ（→AGF社へ）



- ④栄養バランス改善を啓発する情報ツールの提供
（ありがとうレシピ集、どんなときもレシピ、栄養バランスチェックシート）



地域コミュニティ再生後方支援活動の経緯

珠洲市、輪島市、能登町、穴水町の4市町で
仮設住宅建築戸数の約85%をカバー

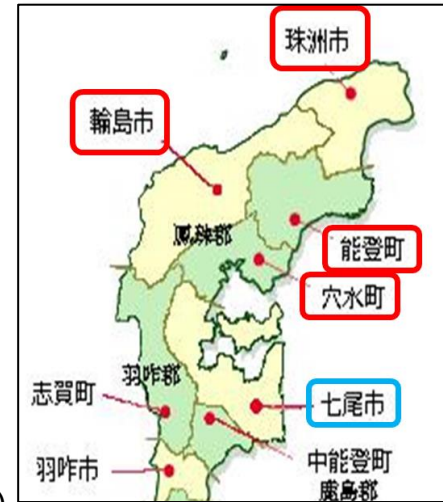
- ・ 4～5月に奥能登4市町（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町）に山田さんと2名で回訪し、料理教室の主催者向けの研修会等の提案を実施
- ・ 4市町全てで料理教室の主体者候補（食改）向けの研修会支援を受け入れたい意向



<第1弾：前回報告済> 7月17日～19日（輪島市門前、能登町、穴水町①）



<第2弾：完了> 11月5日～8日（輪島市②、穴水町②③、珠洲市）



① 輪島市 @三井公民館 (11/5 料理教室研修会)



- ・ 三井地区の食改さん & 料理教室の開催のお手伝いをしたい意向の方々 計11人が参加
- ・ 山崎専務理事、三浦も同行

① 輪島市 同行者：金沢大学 岡本先生へのAGF社ドリンクバーのお繋ぎ

10月末の日本公衆衛生学会@札幌のシンポジウム参加者の金沢大学の岡本理恵先生（保健師）が輪島市での料理教室研修会に参加。
ご自身が輪島で開催されている月1回の健康イベントでカフェの新設を検討されていることから、AGF社に相談し、11月末に設置が決定。



1回/月 輪島市マリンタウン競技場内仮設団地集会所にて、「健康づくりのひろば」（健康相談、からだ測定、足湯等）を実施しています。
その際にカフェを併設し、スティックドリンクバーを利用させていただきます。

②穴水町 @兜公民館 (11/6 料理教室研修会)



味の素 北陸支店 木村支店長 他2名も参加。石川県職員の行政栄養士 高谷様が仕切り

②穴水町 @穴水町保健センター（11/7 料理教室研修会）



- 「どんなときも♪レシピ集」監修者の神戸学院大学 伊藤先生、味の素(株)北陸支店営業担当3名も参加
- 穴水町は既に3回（36人参加）実施し、主要な食改さんの受講はほぼ完了

②穴水町 自主開催@穴水町保健センター

■自主開催の実施を確認

7月に研修会に参加していた食改さんが 9月5日に穴水町保健センター調理実習室にて初の仮設入居者向け料理教室を開催。（25名が参加）

研修会で実際に作ったメニューをそのまま活用いただいていた

- ・夏野菜とひき肉のトマトカレー
- ・青じそ香るのオイルサラダ
- + 地元で採れたゴーヤの寄付で
ゴーヤジュース



■調理器具の協賛に向け、調整中（後述）

→合意書回収へ



③ 珠洲市 @ 珠洲市健康推進センター（11/8 料理教室研修会）



珠洲市は初の研修会開催。神戸学院大 伊藤先生も大活躍！
次回の開催に期待するお声も多く、拍手喝采をいただく場面も。

③ 珠洲市 @ 珠洲市健康推進センター

能登支援

■ 食改さんによる自主開催の実施

TAFが寄付した調理器具を活用し、これまでに**仮設入居者向け料理教室を6回実施済**



日程	テーマ	時間	場所
6/26 (水)	男性料理教室	10:00~12:00	正院小グラウンド仮設集会場
7/17 (水)	男性料理教室	13:00~15:00	宝立小中学校グラウンド仮設集会場
8月	夏バテ予防料理教室	10:00~12:00	蛸島多目的仮設集会場
	夏バテ予防料理教室	10:00~12:00	蛸島公民館
9月	親子クッキング	10:00~12:00	増進センター
	夏バテ予防料理教室	10:00~12:00	宝立小中学校グラウンド仮設集会場
10月	ヘルシー和食教室	10:00~12:00	
	ヘルシー和食教室	10:00~12:00	
11月	ヘルシー和食教室	10:00~12:00	
	ヘルシー和食教室	10:00~12:00	
12月	クリスマスメニュー	10:00~12:00	
	クリスマスメニュー	10:00~12:00	

【珠洲市食改報告書（8月分）より】

・きゅうりは自宅でもよく食べる食材で、「いつもはみそつけて食べるだけやわ」、「さきいかじゃなくて シーチキンにしてもよさそう」などと活発に発言されていた。できあがったものはおいしいと好評だった。

・通水や排水がまだ不十分な地区ですので、フレイル予防の講話の中でミニクッキングを行いました。

・和え物のみを作りましたが、みなさん楽しく取り組んでおられました。

③ 珠洲市 @ 珠洲市健康推進センター

■ 食改さんによる自主開催の実施

10月の豪雨の影響で一時中断していたが、11月下旬から再開されている

【11/21 @ 正院町 第一団地仮設住宅集会場】

参加者のお声 「終始にぎやかに楽しく実習した。はんぺん入りのだんご汁がおいしかった」
 「揚げない揚げ出し豆腐は家でもやってみる」
 「みんなで食べる食事は格別です」

- ・ 山田方式の事前準備、進め方も取り入れて、11/8のTAFの料理教室の献立をそのまま活用いただいていた



日程	テーマ	時間	場所
6/26 (水)	男性料理教室	10:00~12:00	正院小グラウンド仮設集会場
7/17 (水)	男性料理教室	13:00~15:00	宝立小中学校グラウンド仮設集会場
8月	夏バテ予防料理教室	10:00~12:00	鮎島多目的仮設集会場
	夏バテ予防料理教室	10:00~12:00	鮎島公民館
9月	親子クッキング	10:00~12:00	増進センター
	夏バテ予防料理教室	10:00~12:00	宝立小中学校グラウンド仮設集会場
10月	ヘルシー和食教室	10:00~12:00	
	ヘルシー和食教室	10:00~12:00	
11月	ヘルシー和食教室	10:00~12:00	
	ヘルシー和食教室	10:00~12:00	
12月	クリスマスメニュー	10:00~12:00	
	クリスマスメニュー	10:00~12:00	

能登半島被災地 地域コミュニティ再生後方支援活動

<第1弾：完了> 7月17日～19日（輪島市門前、能登町、穴水町）

<第2弾：完了> 11月5日～8日（珠洲市、輪島市②、穴水町②③）

11月5日（火）輪島市 【同行：山崎専務理事、三浦さん、北國新聞】

11月6日（水）穴水町 【同行：味の素北陸支店 支店長 他2名】

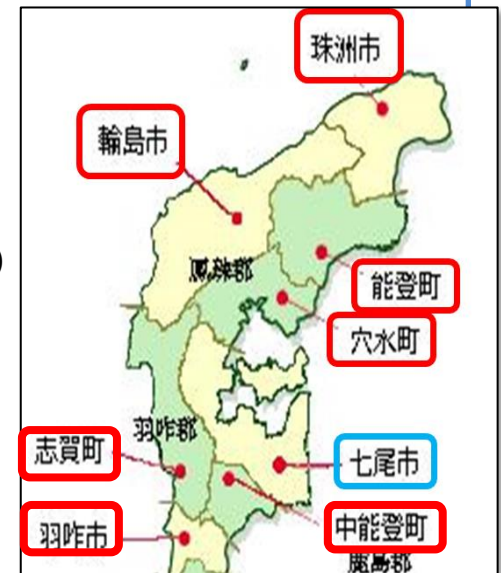
11月7日（木）穴水町 【同行：味の素北陸支店 3名、神戸学院大学 伊藤先生】

11月8日（金）珠洲市 【同行：神戸学院大学伊藤先生】

<第3弾：確定> 25年3月25日～28日（志賀町①②、能登町②③）

<第4弾：予定> 25年4月21日～25日
（羽咋市22～23日、中能登町24～25日の実施も決定）

さらに、南加賀保健所の行政栄養士（藤川様）より、
たべぷろ講演の相談もあり
→25年2月12日の開催が決定！



大規模災害発生時の急性期対応への準備

能登半島地震対応時

民間ルートによる食糧支援物資お届けスキーム



不足栄養の改善
 (たんぱく質、食物繊維、ビタミン、カルシウム等)

心の栄養

に繋がる食糧支援物資・情報ツールを
 民間ルートでお届け

2. 中長期事業戦略

1) 食と栄養を通じた地域の自助力・互助力の向上

- ① 地域に根差し、食を手段として住民の支援活動を行う組織向けに、たべぷろも含むTAF保有のチェ・ノウハウ・モノの提供で、伴走型の継続した後方支援を継続
- ② どんなときも♪ レシピ集等のツールも活用し、フェーズフリーに備えの拡充を推進

2) 食と栄養における共助・公助力の向上、官民連携力アップ推進

赤エプの実績とエビデンス、たべぷろの知見を活かした情報発信で、発災時の食と栄養支援について実行力のある組織を増やし、問題解決に資する仕組み作りを推進する

3. 2025年度目標

【要約】

(1) 食と栄養を通じた地域の自助・互助力の向上【赤エフ】

- 1) 地域に根差し、食を手段として住民の支援活動を行う組織の後方支援
- 2) 学術機関と連携した支援活動の評価、まとめようPJTの継続
- 3) 外部との連携（「どんなときも♪レシピ集」の普及）
- 4) 防災文脈の新講習パッケージ構築

(2) 食と栄養における共助・公助力の向上、官民連携力アップ事例作り支援

- 1) 官民連携の推進
- 2) 共助実行力と主体性のある支援者（企業、団体、組織）の発掘と連携
- 3) コンテンツ制作・発信
- 4) 大規模災害を想定した民間ルートによる食糧物資供給の後方支援の仕組構築

2024年度レビュー	2025年度目標
<p>1. 東北における動き</p> <p>(1) 料理教室の自主開催</p> <p>4-12月累計50回開催。TAFによる視察が自走者のモチベーション向上に繋がり、重要性を実感。調理器具の新規協賛案件は能登半島地震被災地の珠洲市（食改）を含めて2件。</p> <p>(2) 地域の支援者支援活動</p> <p>講習・研修・講習会4-12月累積89回実施。目標進捗率148%、年度着地見込 講演会7回＋研修会55回＋講習会55回＝計117回（対年度目標195%）</p>	<p>1. 食・栄養を通じた地域の自助・互助力の向上(赤エプ)</p> <p>(1) 地域支援の充実</p> <p>食改、子ども食堂（生協、社協、NPO、自治会）をターゲットの中心に据え、東北・能登を優先しつつ、被災地以外でも支援を行う。能登については、珠洲、輪島、穴水、能登以外への支援の拡大も行う。後方支援として、各種レシピ集、栄養バランスチェックホワイトボード、調理器具等の提供を行う。料理教室運営研修会、赤エプ講演会、「どんなときも♪レシピ」講習会の3パッケージを展開し、「どんなときも♪レシピ」講習会は、TAF以外の地域でのキーパーソンが講習会を実施できる簡易パッケージツールを作成、講習・育成を行う。</p> <p>(2) 学術機関と連携（まとめようPJTの継続）</p> <p>TAF事業自主開催パートナーの活動のアウトカムのエビデンス化サポートを依頼し、学会等で研究成果の発信活動を行う。2025年度はパリ栄養学会での発表もp視野に入れる。また、赤エプ料理教室実施支援のアウトカム測定を開始する。</p> <p>(3) 外部との連携（「どんなときも♪レシピ集」普及）</p> <p>防災士協会、日本食生活協会、栄養士会等との連携、学術機関との連携（小中学校【家庭科＝食育】日本家庭科教育学会等）など新しい取り組みを推進する。</p>

2024年度レビュー	2025年度目標
<p>2. まとめようプロジェクト：学術機関による研究発表による社会への発信を積極的に実施し（日本健康教育学会等）HPでも情報を公開。</p> <p>3. 食べる支援プロジェクト（たべぷろ）</p> <p>(1) 手引きを活用した啓発活動4-12月累積15回実施。目標進捗率75%。</p> <p>(2) 能登半島地震被災地では、物資支援→地域コミュニティ再生支援を実施。</p>	<p>2. 食と栄養における共助・公助力の向上、官民連携力アップ推進： （食べる支援プロジェクト(たべぷろ)）</p> <p>(1) 官民連携の推進 「たべぷろ手引き」を活用した食の防災啓発講演等を通じて地域の官民ネットワーク拡充の後方支援を、実行力のある行政を選び継続する。市町村行政に対し『食の防災の仕組構築進捗チェックリスト』を提供し、改善も含め進化させ、地域での官民ネットワークの拡充及び仕組作りが進むよう提言する。</p> <p>(2) 共助実行力のある支援者（企業、団体、組織）の発掘と連携 ヤフー社、食品関連企業（生団連との連携）、日本財団等</p> <p>(3) 行政危機管理部門への取り組み 「食の防災」仕組構築の必要性を訴え町村に落とし込む流れを作る（埼玉等）</p> <p>(4) 地区防災計画学会への参入（加藤委員との連携）</p> <p>3. コンテンツ制作・発信</p> <p>(1) 「どなたときも♪レシピ集」第2版⇒内容の改善実施を行う。</p> <p>(2) 子ども向けメニューコンテンツの製作 子どもの理解力や興味に合った「どなたときも♪レシピ」を開発する。</p> <p>(3) YouTube動画 どなたときも♪レシピ等のアップ、講演動画の製作</p> <p>(4) X：フォロワー数拡大に向け告知も開始（HPやメルマガ等）</p> <p>4. 大規模災害時の民間ルートによるの仕組構築</p> <p>(1) ヤフー社（SEMA）、食品関連企業とのパートナーシップ拡大</p> <p>(2) 急性期の物資支援時に物流面で連携できるパートナーの発掘</p>

1. 事業目的

地元の食生活に適した栄養食品の研究・開発・製造・販売および栄養に関する知識の普及を通して、対象となる母子の栄養改善を実現し、公共の福祉に貢献する。

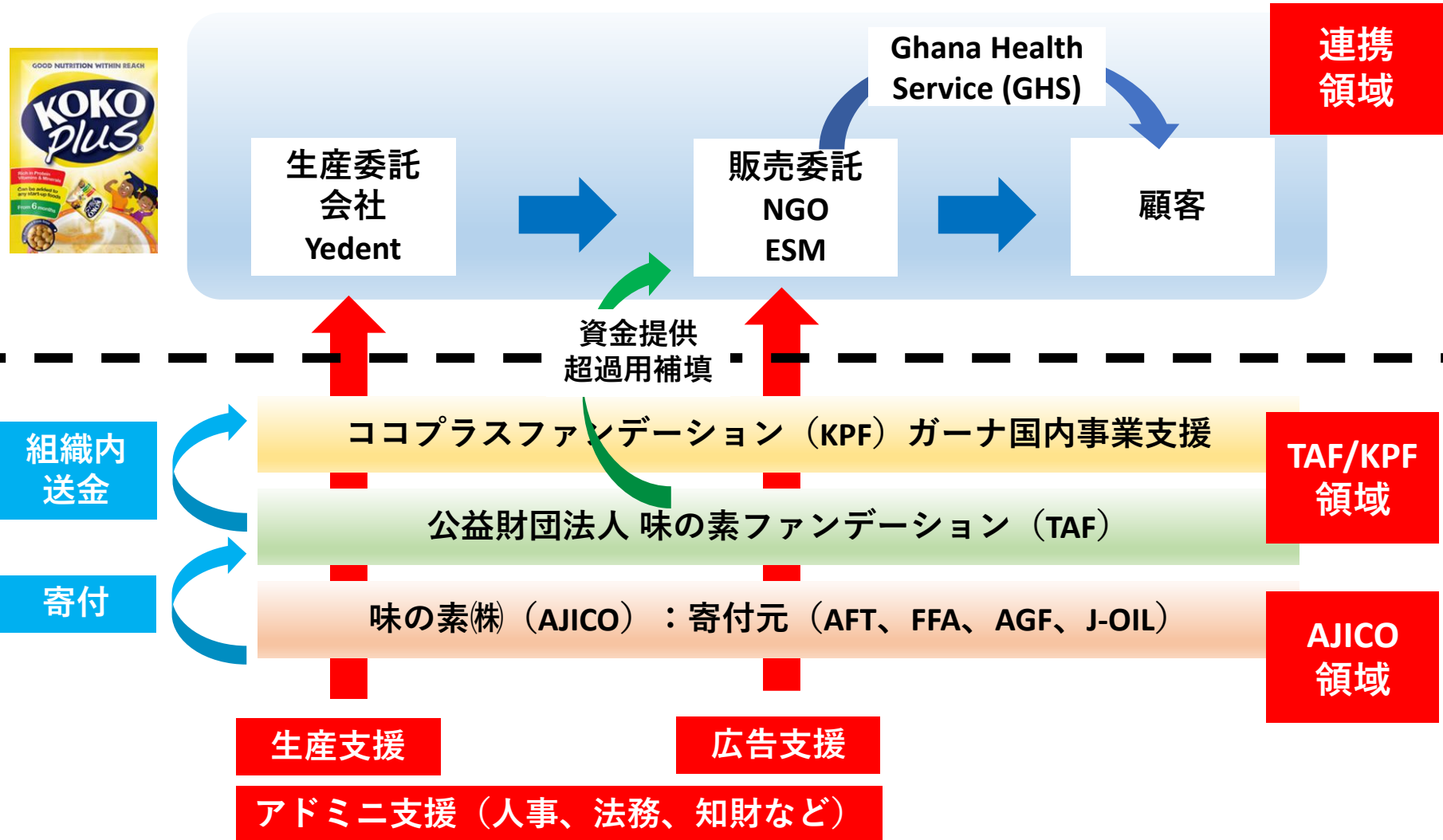


GNIP : Ghana Nutrition Improvement Project

ガーナ栄養改善プロジェクト (GNIP)

ガーナ栄養改善プロジェクトの役割分担

実際の商売領域 (Value Chain) は、すでにガーナ国内各組織に移っている



ガーナ栄養改善プロジェクト 産官学民連携

産官学民の力で、ガーナを日本の保健・栄養分野における支援の一大拠点に！

現状のプラットフォーム

官 (公的機関)

産 (ビジネス)



第1期プロジェクト 2019年5月ー21年7月

日本政府（国際連携無償資金） → WFPガーナ



2019年4月WFPガーナ・味の素ファンデーション
連携による母子の栄養改善の社会実装活動開始

活動

1. 最貧層向け栄養教育 + 栄養食品「KOKO Plus®」 **無償配布** (WFPシステム活用)
2. 購入可能層向け栄養教育 + 栄養食品「KOKO Plus®」 **有償販売** (継続使用)

成果

1. 栄養教育 + 栄養食品活用が、**母親の子どもへの栄養ケアのきっかけ**になることが分かった
2. 栄養知識の習得と**栄養改善の実感**が、**栄養食品の継続購入**に繋がることが分かった

※ 2018年4月にWFP認証取得(ガーナ国のみ)

第2期プロジェクト 2022年4月ー24年3月

日本政府（国際連携無償資金） → WFPガーナ



日本の異業種民間3者の革新的連携
TAF + NEC + Sysmex（別紙2）

活動

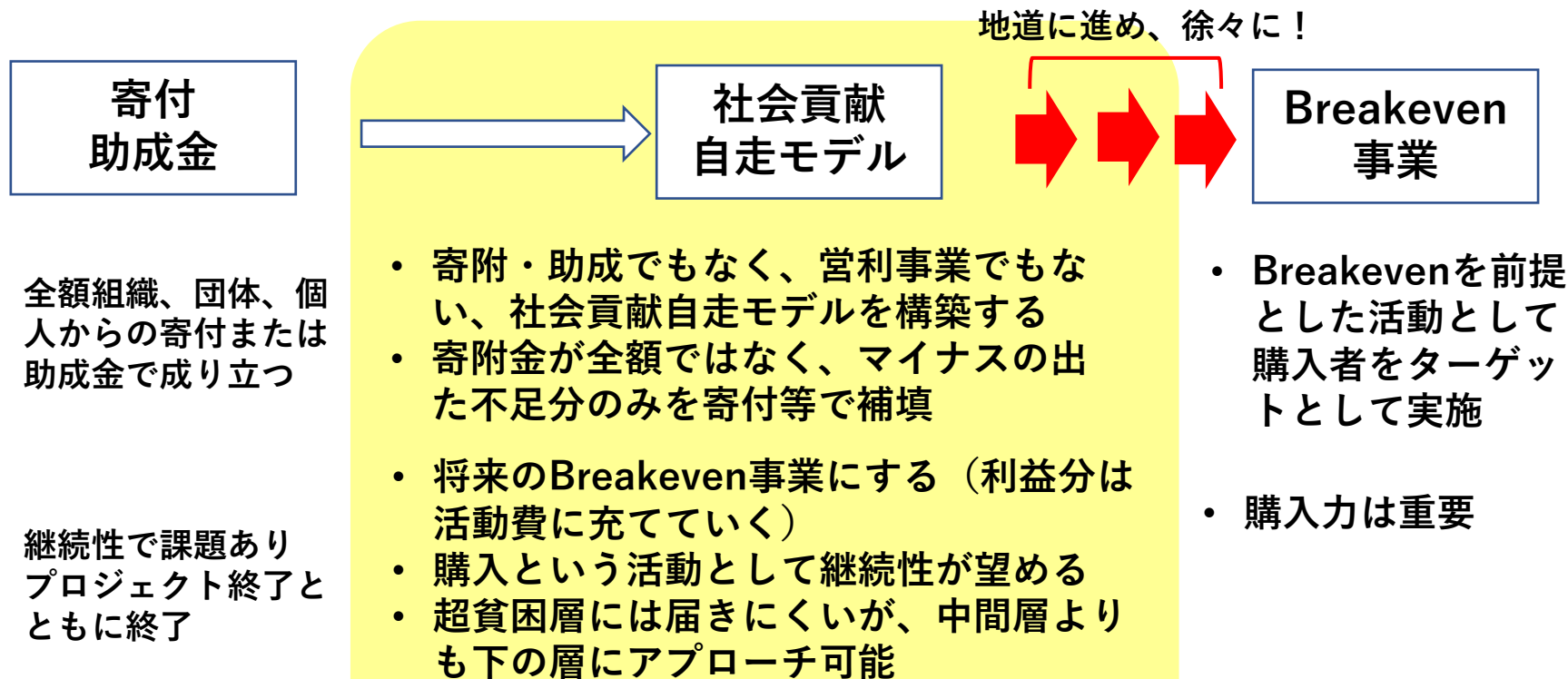
1. 農村部貧困地域の**生活改善**（1郡:WFPが担当）
2. 栄養教育と**行動変容促進 + KOKO Plus紹介活動の質向上**
（90郡：TAF + GHSが主担当）（有償販売）
3. 日本の技術（ICTツール、最新の検査機器）の活用と絡めた**行動変容の効果向上のパイロット**（1郡：TAF + NEC + Sysmex + GHS）

※将来のWFP連携地域拡大に向け、ガーナ外の地域への認証取得（西、東アフリカ地域等）を目指す

ガーナ栄養改善プロジェクト (NEC、SYSMEX、TAFの3者連携)



- 寄付でもなく、Breakeven事業でもない領域で成功事例として新しいモデルを構築する。
- 他国への将来の展開も踏まえ、事業自体のBreakevenを目指す。一定の規模までは、補填額の増加がない範囲で、受益者増の活動を優先し、最終的には利益として出た部分は活動の充填していく。





21:10 82%

伊藤たかえ ... ×
28分

第9回アフリカ開発会議（TICAD9）閣僚級会合テーマ別イベント「アフリカにおけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）達成のためのグローバルヘルス・ファイナンス：成果の最大化に向けたパートナーシップをいかに推進するか」ランチョンセッションに登壇し、ガーナ視察の報告をさせていただきました。

◆発言要旨
「ODAに対するマインドセットの必要性」について述べたいと思います。
約30年間にわたって続いたデフレの影響で日本国内には以前にも増して格差や分断が生まれました。ODAへの国民の理解も例外ではなく、寛容さを失った一部の言説は、SNSによって拡散、増幅されています。UHC達成のため、先人たちが続けてきた努力を継承するには、政治家は今、有権者に説明する多様な文脈を持たねばなりません。
具体的に3点申し述べたいと思います。

1点目は「日本の課題解決にも繋がっている」という文脈です。ジップラインのドローン輸送技術は、日本が直面する人手不足による物流危機、へき地医療、感染症対策の新しい選択肢であり、現にジップラインに出資した豊田通商が技術提供を受け、現在、長崎県の五島列島でのサービスが開始されています。
また日本国民は、元日に発生した能登半島地震により、道路や港が閉ざされた場所の復旧・復興がいかに難しさを思い知りました。今後「半島防災」を考える上で、ドローン輸送の観点は欠かせません。

2点目は「日本では規制に阻まれるイノベーションの社会実装」という文脈です。
愛知県の航空ベンチャー、ソラテクノロジーのAI、ドローンを駆使した防虫技術は、現在の日本では、その有効性を試すことが出来ません。アフリカのトップダウン式的意思決定によって実施、その有効性のエビデンスを得て、日本にもってこることが必要だと金子社長が仰っていたのが印象的です。

3点目は「新産業への投資」という文脈です。
味の素ファンデーションの栄養補助食品ココプラスは無償配布をしていません。妊婦自身に栄養に関する知識をインプットし、行動変容を促すことで、産学官民連携によるソーシャルビジネスを確立しています。今後、アフリカに投資が集まるのは明確です。アフリカの発展と共にココプラスの市場は拡大し、その収益は日本経済に還元されるでしょう。

TICAD 閣僚会議Facebook、Workplace記事

- ・通常、個別の企業名（財団名）を提示する例は**極めて稀**。
- ・今後の栄養サミットやTICAD9に向けて、
国際会議での文言として残り、各国政府関係者に注視されることになる



3 日・アフリカ発の革新的解決策

二つ目は、保健や気候変動を始めとする社会課題に対する日本とアフリカ発の解決策を共に創り上げることです。

まず、日本が長年力を入れている母子保健の協力は、母子手帳の普及、保健人材の育成やヘルスポストの整備といった基礎的な取組を経て、現在はICTな

どの民間企業の先進的技術も取り込んでいます。例えば、ガーナでは、JICAによる取組を活用して、栄養失調予防食品事業を中心に展開する公益財団法人味の素ファンデーションを主体として、ICTサービス等を手がけるNEC、医療機器メーカーのシスメックスが参画し、日本のICT技術による母子の健康診断と栄養指導、貧血・マラリア診断装置、栄養補助食品の普及を組み合わせた画期的なプロジェクトが進んでいます。

3. Innovative solutions from Japan and Africa

The second point of emphasis is working together to come up with solutions in Japan and Africa to healthcare, climate change and other social issues.

First, Japan has long been focusing efforts on cooperation in maternal and child

healthcare. Following such basic efforts as disseminating maternal and child healthcare handbooks, training healthcare personnel and developing healthcare posts, Japan is now incorporating ICT and other advanced technologies from the private sector.

In Ghana, for example, the Ajinomoto Foundation, a public interest incorporated foundation, focused on ensuring access to food to prevent malnutrition, is playing a leading role that is participated by NEC, an ICT service provider, and Sysmex, a medical equipment manufacturer. They launched an innovative project, based on the experiences through the projects of JICA, combining health examinations and nutritional guidance for mothers and children utilizing Japanese ICT with the dissemination of anemia and malaria diagnostic equipment and nutritional supplements.

3. Solutions innovantes issues de la collaboration nippo-africaine

Quant au second sujet, il s'agit de notre capacité à concevoir des solutions

Ainsi, au Ghana, la Fondation Ajinomoto, qui est principalement engagée dans le développement de produits alimentaires pour lutter contre la malnutrition, est au cœur d'un tel projet. Ce projet pionnier, utilisant les expériences des projets menés par JICA, qui implique également NEC, fournisseur de services numériques, et Sysmex, fabricant d'équipements médicaux, repose sur la combinaison de trois actions : des bilans de santé et des conseils nutritionnels dispensés aux mères et à leurs enfants tirant parti du savoir-faire japonais en matière de technologies numériques, la fourniture d'équipements de diagnostic de l'anémie et du paludisme et la distribution de suppléments nutritionnels.

TICAD 閣僚会議Facebook、Workplace記事



TICAD閣僚会議2024：プレナリー・セッション1（社会）
上川陽子外務大臣ステートメント

1 導入
セッション1におきましては、「持続可能な未来の実現」をテーマに議論したいと考えます。私から、まず二点強調したいと思います。

2 人材育成・教育
一つ目は、アフリカの将来を担う若者の育成です。
日本への留学と日本企業でのインターンの機会を提供するABEイニシアティブを通じ、日本はアフリカの産業人材を育成しています。同プログラムの修了生は、日本企業とアフリカ企業をつなぐ架け橋です。例えば、同プログラムに参加したケニアの青年は、帰国後にインターン先の企業と連携をし、eラーニング事業を展開しています。日本はこのような取組を継続していきます。
また、エジプト日本科学技術大学、ジョモ・ケニヤッタ農工大学及び汎アフリカ大学基礎科学・技術院を拠点として、高度人材の育成や日本の大学との共同研究などを実施しています。例えば、ジョモ・ケニヤッタ農工大学、帯広畜産大学と建設会社フジタは、ケニアの農民や農協の協力を得つつ、じゃがいもの栽培や貯蔵の実証研究を行い、新技術の導入や収益の向上に繋げています。
日本とアフリカの若者の学び合いによって、経済・社会の革新的課題解決を共に創り上げる、新しい協力の流れがさらに出てくることを期待しています。

3 日・アフリカ発の革新的解決策

I Ichiro Yamazaki
9月4日 13:21

【Ghana Nutrition Improvement Project (GNIP)】
ガーナ栄養改善プロジェクト

2024年8月24日～25日に開催された「2024年TICADアフリカ開発会議（TICAD）閣僚会合」の2日目の経済セッションに公益財団法人 味の素ファンデーション（以下、TAF）より、倉島理事長、山崎が出席。

スタートアップの奨励の話が多い中、最初のセッションのファシリテートを行ったシブサワ・アント・カンパニー株式会社の渋澤 健代表にもご挨拶をすることができました。

また、上川外務大臣の公式ステートメントの中で、現在国際連携無償の支援をWFP経由で受けTAF、NEC、SYSMEXが行っている連携プロジェクトも組織名入りで紹介されています（写真）。第9回アフリカ開発会議（TICAD9）を2025年（令和7年）8月20日から22日まで横浜で開催されます。

以上 山崎 TAF

本日追加

2024/2 Media Trip

GHトリップ 全体サマリー

約1週間で、6企業(9エリア)を見学。「産学中心での学び→(途上国ならではの)現地見学」とメディアチーム6名とアクセラレーターチーム4名が一体となって、ガーナのグローバルヘルス!

DAY.1	DAY.2	DAY.3
 JICA/Gavi/洗滌ブリーフィング	 Mother to Mother SHIONOGI Project	 Zipline
 SORA Technology	 Ejisu Ki	 ワクチン保冷輸送車
 SHIONOGI	 Ejisu Ki	 Zipline
 SORA Technology	 Ejisu Ki	 Zipline

Mr. Ken Shibusawa

CEO, Shibusawa & Company, Inc.
CEO and Founder, &Capital Inc.
Chairman, Commons Asset Management
Member of the Council on "The New Form of Capitalism"
GGG Japan NAB Chair
Triple I (Impact Investment Initiative) for Global Health, Co-Chair
Chairperson, Business Leaders' Coalition for Global Health

大統領面会

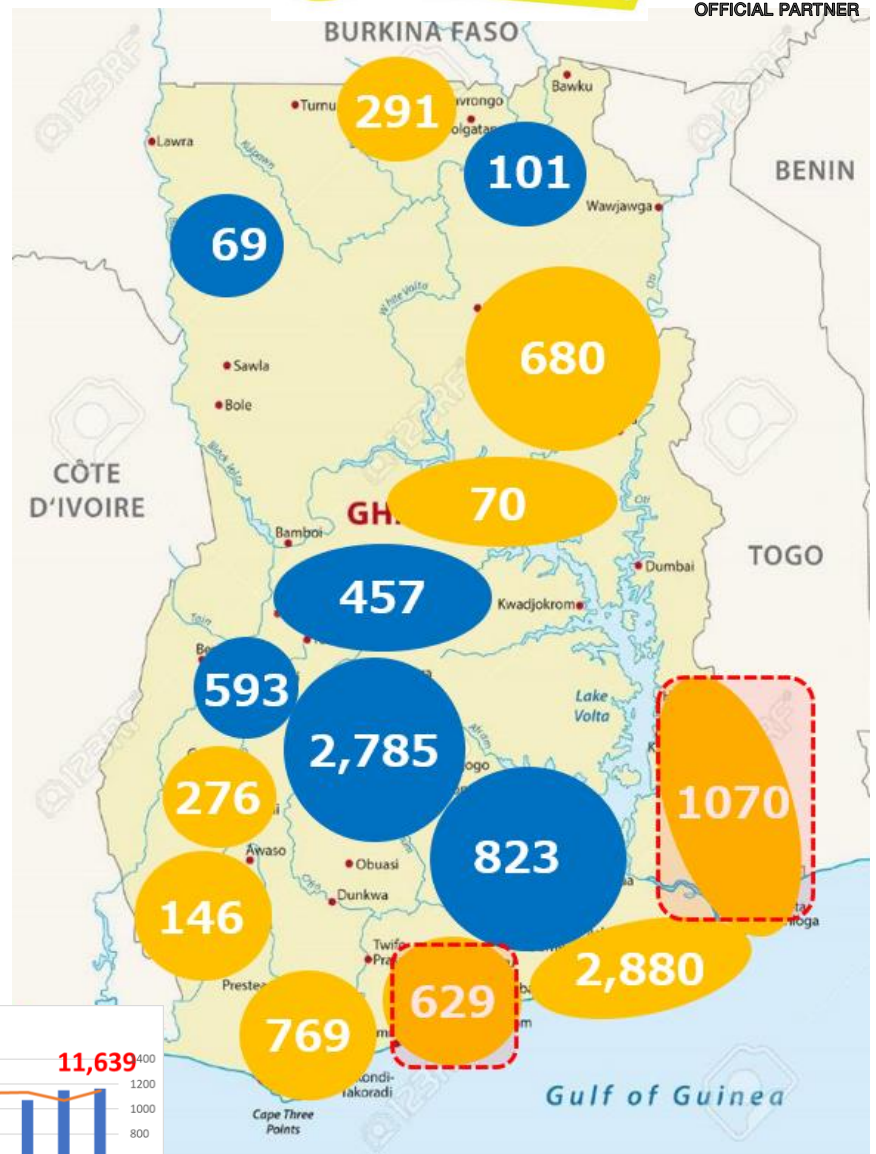
ガーナ大使館レセプション

野口記念医学研究所

店頭に並ぶ店の数

11,639店

(前月比 +151)



店頭に並ぶ店の数 推移



当月

START RIGHT, GROW WELL

KOKO Plus[®]

Protein and micronutrients supplement

From **6** months+



Important Health Information

The World Health Organization and Ghana Health Service recommend exclusive breast-feeding for your baby for 6 months, with continued breast-feeding for up to 2 years or beyond after introduction of first foods.

Preparation

Wash your hands and all utensils with clean water and soap. Dish freshly made food into baby's bowl, add one sachet of KOKO Plus*, stir and serve.



Other recommended Menu

KOKO Plus* can be added to any family foods such as soup/ stew eaten with banku, fufu, kenkey etc.

Ingredients

Soybean, Sugar, Palm olein, Calcium, Lysine, Vitamin C, Choline, Iron, Zinc, Vitamin E, Niacin, Vitamin A, Vitamin B1, Vitamin B2, Vitamin B6, Iodine, Folic acid, Vitamin K1, Vitamin D3, Vitamin B12

Allergy information: This product contains Soya

- ✓ Store in a cool dry place.
- ✓ Give your child one sachet of KOKO Plus* per day.

Customer care info

0552 571 791

KOKO Plus

Is the registered trademark of The Ajinomoto Foundation

Supported by the Japanese people.

Nutrition Information / 15g Sachet

Energy	60kcal
Protein	3.4g
Carbohydrates	7.7g
Fat	2.7g
Iron	7.8mg
Calcium	213mg
Zinc	2.2mg
Iodine	69µg
Vitamin B1	381µg
Vitamin B2	248µg
Vitamin B6	330µg
Niacin	3.4mg
Folic acid	68µg
Vitamin B12	0.6µg
Vitamin A	254µg
Vitamin E	5.2mg
Vitamin K	14µg
Vitamin D3	3.1µg
Vitamin C	32mg
Choline	65mg



Manufactured by YEDENT AGRO FOODS PROCESSING COMPANY
P. O. BOX 1306, Sunyani, Bono, Ghana
For KOKO PLUS FOUNDATION
60 Patrick Lumumba Rd,
Airport Residential Area, Accra, Ghana
FDA/ Ad 19-059
Net weight 15g

FDAとのやりとりでこのパッケージデザインも変更予定です



シブサワレター（渋澤 健氏） 1月より

先月下旬に経済同友会の中東・アフリカ委員会が主催したフォーラムに官民・産学の識者を招き、「官民共創によるオファー型協力に向けて」というテーマでディスカッションを展開しました。オファー型協力とは、従来の相手（途上国）の要請に応える開発協力から発展する新しい時代への試みであり、ODA（政府開発援助）に加え公的・民間資金も含みながら日本らしさの強みを生かして相手と共に創ることで途上国と日本の課題解決につなげることを目指しています。

大事なポイントは、官民「連携」でなく、「共創」という表現を用いていることです。連携とは、それぞれに与えられた役割が定められ、交差するところを示す概念だと思えます。つまり、お互いが既存路線を進んでいて、合うところで合わせましょうという考えが「連携」です。一方、「共創」とは共に創る。つまり、無から有を、それぞれの持ち分を共に生かしながら創りましょうということで既存路線の延長線上に限らない概念だと思えます。

万博に加え、TICAD（アフリカ開発会議）が横浜で開催される「昭和 100 年」に、私が仲間たちとチャレンジする共創、つまり、無いところから有るところの場がアフリカ大陸になります。「遠い」存在であるアフリカ大陸だからこそ、日アフリカのエコシステムを共に創ることは少子高齢化により人口動態の激変に直面している日本社会の未来世代のために極めて大切な先行投資だと思っています。

助成に関するまとめ（概略）

時期	分類	総額	受領総額	説明	現状
2010	経産省BOPビジネス立上支援	1,000万円	1,000万円	ビジネス調査味の素時代	終了
2012	GAIN Monitoring & Evaluation	20万ドル	20万ドル	プロジェクト効果試験味の素時代	終了
2012	USAID 民間連携	60万ドル	60万ドル	流通試験味の素時代	終了
2012	JICA BOP連携支援	5,000万円	5,000万円	栄養試験味の素時代	終了
2019	国際連携無償(WFP)	5億円	1億円	北部エリア	終了
2021	アフリカ開発銀行 PHRDG グラント	60万ドル	途中で交渉終了	GHS連携	申請終了
2022	国際連携無償(WFP)	5億円	2億円（TAF1.4億円）	GHS連携 アシャンティ地区	終了
2023	UNDP	5億円	NEC主体（TAFは3,000万円）	北部エリア	実施中
2024	USAID	?	北部をカバーするNGOからの受注（600箱）	北部エリア	申請中
2024	メリンダ財団	1～5万ドル	SBC with Market baseアプローチ	都市部	申請中
2024 -	USAID	?	総額45MUSDの予算の中で、北部エリアの対策として検討	北部エリア	相談中

味の素が主体ではないプロジェクト

プロジェクト (簡略して記載)	原則 5 : 短期、中期、長期の介入を上手く橋渡し (自立を支援)			原則 3 : 真の意味でのセクター連携、ステークホルダー連携 ガーナ政府、日本政府、国際機関、NGO (ケア) などが連携して持続的栄養改善を行う、総合的なステークホルダー連携の取組みを実施	原則 4 : 知見の集積、科学的根拠に基づく介入を重視	原則 2 : 包摂性 (女性、若者、小規模農家等の包摂とエンパワーメント)
	短期 (緊急支援)	中期 (栄養改善の仕組みづくり)	長期 (援助に頼らないマーケットベースアプローチ)			原則 1 : 人間中心の開発
Distributing Japanese Nutrition Supplements to Young Children of Refugee Families in Ghana 1.2mUSD 2020/4 ~2021/3	★ (難民支援)			国際機関 : IFPRI (国際農業政策研究所) Ghana Refugee Board	IFPRI 野口研究所	難民等の社会的弱者への緊急支援を目的とした人間中心の開発
北部州イースト・マンプルーシー郡2歳未満児の栄養改善事業 0.5mUSD,2019/2(終了)		★ (農村部)	★ (事業終了後も栄養教育 + KOKO Plus®販売を継続)	国際NGO : CARE	完了報告書	弱者である女性の起業家育成 (経済的自立を目指す)、母子への栄養教育
地域と保健施設をつなぐ母子継続ケア強化プロジェクト 2019/12終了		★同上	★同上	国際NGO : JOICEP	完了報告書	弱者である母親への栄養教育
Improved Feeding Practices for first 1000 Days 2.9m USD (世銀JSDF) 2020/1?~ (ガーナ政WFPと府の署名終了)		★		国際NGO:World Vision	IFPRI? (要入札)	弱者である女性の起業家育成 (経済的自立を目指す)、母子への栄養教育、家庭への農業指導

2. 中長期事業戦略

- (1) 現地政府、学術機関との協力により現地の栄養問題分析、調査研究を行う
- (2) 上記により開発した製品について、現地政府機関と企業の官民連携によって受益者拡大を行う浸透モデルを構築する
- (3) 現地企業がサステナブルに継続できるICTを活用したバリューチェーン（生産、物流、販売、浸透活動）の構築を行う
- (4) 離乳児から子供向けへの製品適用範囲の拡大を行う。併せて他者連携でオープンイノベーションを推進
- (5) 事業強化・拡大のため、エビデンス構築、PR、ドナー資金獲得のサイクルを回す



3. 2025年度目標

【要約】

(1) マーケティング戦略

「KOKO Plus®」の適用範囲拡大開始（10歳まで）、LTV（ライフタイムバリュー）の向上：大容量品展開検討、タイミングを見た値上げ（1.5Cedi⇒2.0Cedi）**デザイン変更**、直販体制の強化、**北部エリア強化**、「Food Demonstration(FD)」活動推進、新販路拡大、PRなどの強化

(2) SCM戦略：（Yedent⇒ESM⇒顧客）ルートのDX推進、管理強化

(3) 生産戦略： 基本活動の徹底（安全、保全）常時包装2ライン体制、混合機新規導入

(4) PR戦略

「KOKO Plus®」**2歳から10歳への適用拡大**、GHS（Ghana Health Service）とのMOU締結に向けた活動（TICAD9でのg-奈主要メンバーの日本へ招待など）

(5) 組織戦略

ESMのSPV組織体制、YedentのKKP製造マネジャーの育成
KPFの連携とガバナンス強化

(6) 中期戦略

UNDPとの連携開始（14万ドル）
エビデンス獲得のための解析準備検討（FDのガイドブック、効果検証など）

2024年度レビュー

1. マーケティング戦略

(1) Product 「KOKO Plus®」

- 1) 貧血予防、2歳以上の子供向に適用範囲拡大検討。
- 2) プロダクトコピー・包装デザインの見直しを実施。

(2) Price

外部要因(CPI・為替・競合)とGP（グロスプロフィット）率を加味し、適切なタイミングでの値上げを随時実施。また、FY30自走化に向けたPL（プロフィット&ロス）構造の見直し。

(3) Place :

- 1) 都市モデル：販売体制・ルートの見直し：販売管理システムを活用し営業マンのパフォーマンス改善を更に推進。直販体制を最大活用し、インボイス数増加＝アクティブショップ数増加を目指す。
- 2) ルーラルモデル：委託先とのコミュニケーションを改善し、限られたリソースでのインパクト最大化を目指す。ルーラルエリア（特に北部）の新たな開拓方法を模索する。

(4) Promotion

1) GHS協働

看護師が継続的に「KOKO Plus®」を紹介する場となりうる「Food Demonstration(FD)」の機会を活用し、GHS協働の成功事例を確立、横展開していく。また、限られた人員でガーナ全土をマネジメントできるよう新KPIを設定し、SBCC（ソーシャルビヘイビアチェンジコミュニケーション）チームの態度変容を促す。

- 2) その他：現場(販売・GHS協働)と連動した各種マーケティング施策(メディア・SNS)を戦略的に実行する。

2025/3/12

2025年度目標

1. マーケティング戦略

(1) Product

- ①貧血予防を軸に、6か月～10歳未満の子ども向けに適用範囲を拡大。
- ②LTV（ライフタイムバリュー）の向上：大容量品展開検討。

(2) Price

- ①適切なタイミングで2セディへの値上げ検討。
- ②Strip購入者の増加や新しい販売経路（女性起業家コミュニティ）に伴う価格体系の再整理を検討。

(3) Place :

- ①直販体制を強化（SPV制組織体制）
- ②エリア担当制度を確立（北部強化）
- ③新チャネルの活用拡大（自立女性ルートなど）

(4) Promotion

①GHS協働：北部中心に拡大。

- 「Food Demonstration(FD)」活動の更なる推進。FDの型を標準化した教科書を作成し、ブランド化
- ②「ファミリーフード」への添加を軸に、適用拡大
 - ③現場(販売・GHS協働)と連動したメディアやSNSのマーケティング施策

2024年度レビュー

- 2. SCM（サプライチェーンマネジメント）戦略
委託先を含めた生販会議キックオフ。購買、生販計画の管理体制構築。
- 3. 生産戦略
 - (1) 委託先の能力強化：トップ間交流、専属マネージャー配置及び能力強化の実施。
 - (2) 基本活動徹底：技術標準書、SOP（スタンダードオペレーショナルプロセデュア）作成、日報記録の運用遵守。5S推進。
 - (3) コストダウン、安定調達、COG（コストオブグッズ）の安定に繋がる原料購買施策の実施：複数購買、国内調達の検討。通関時の不確定な税率への対策。委託先との共同調達。
 - (4) 仕様改定時のルール作成：アセスメント体制の構築
 - (5) 環境負荷削減
- 4. PR戦略
 - (1) ブランド向上：番組へのスポンサー実施（タレント発掘、小売店主向け番組への提供）。
「KOKO Plus®」摂取後の子供（現9歳）の探索・活用・タレント発掘。SNS広告実施。
 - (2) リスク対策：アドバイザー活用等によるGHS（ガーナヘルスサービス）連携の批判防止策の実施。類似品対策。
 - (3) 国外：受賞、ODA（オフィシャルディベロップメントアシスタンス）の好事例として採用、栄養サミット報告によるプレゼンス強化。

2025年度目標

- 2. SCM戦略：
 - (1) KPF-ESM-Yedentの月次販売、生産、SCM会議を開始。
 - (2) GRA（ガーナ税務庁）への直接納税によるコスト削減と透明性向上
 - (3) 輸入原材料の工場間輸送のアウトソーシング検討。
- 3. 生産戦略
 - (1) 基本活動の実行強化：日々の目標達成（安定生産）、予防保全、5Sの実施、記録とレビューの正確さの確保。
 - (2) 包装機械の安定稼働実現
 - (3) 混合機械更新検討
 - (4) AJICO関連会社（AFN）との情報交換
- 4. PR戦略：
 - (1) ライフタイムバリューの拡大：2歳から10歳の年齢を対象に適用を拡大。
 - (2) PPP拡大：GHSとのMOU（協定）を再締結（延長）のため、TICADなどの機会を活用する。（39 国際的なPR：栄養サミットやTICADにおいて、SBC+市場アプローチ+イノベーションの重要性を強調。

2024年度レビュー

5. 組織戦略

- (1) ESM（販売NGO）：NGO法人としてのガバナンス強化の為、定期的なガバナンスチェックを実施。
- (2) Yedent（生産会社）：ケネディ・FPCによる委託先スタッフの育成。委託先としての基本活動強化。
- (3) KPF（※：ガーナの財団）：1) 委託先内部監査の実施とバリューチェーン全体のKPI（キーパフォーマンスインディケーター）が明確な評価シートの作成。2) アドバイザー・コンサルタントの最大活用。3) AFN（ナイジェリア味の素）との人事交流によるアフリカ法人間の関係促進。4) 青年海外協力隊と一橋のインターン受入れによる新視点導入。

6. 中期戦略

- (1) R&D、エビデンス構築：1) FDの効果検証。2) 母親への栄養教育と「KOKO Plus®」購入経験の相関。3) 3者連携の成果報告。④適正な販売方法・連携先の検討
- (2) ファンド獲得：1) WFPとのファンド構築
- 2) 他ファンド獲得機会の獲得、3) ファンドレイジング・栄養サミットアドボカシーコンサルタントの雇用、4) GHS外との連携検討（例FAO（フード&アグリカルチャルオーガニゼーション）、5) 農業省の女性活用部門との連携等）、6) UNDP（ユナイテッドネーションズディベロッププログラム）との契約締結後の取り組み開始

2025年度目標

5. 組織戦略

- (1) SM：営業力強化を目的にSPV登用。基本営業活動の向上を図る。MGR陣のCRMシステムの整理。
- (2) Yedent：ケネディ・FPCによる委託先マネージャーの育成。委託先としての基本活動を拡充させる。
- (3) KPF：①:ケネディ氏の役割期待拡大②:ファンディングの知識を組織に浸透させる③:アセット管理整理。ブランド・情報・車両管理。ESMとの明確な棲み分け。④:リサーチ、財務、ブランド向上で外部コンサルタント活用。

6. 中期戦略

- (1) 研究開発、エビデンス構築:効果測定と論文化
- 1) フードデモンストレーションのガイドブック作成
- 2) こどもの貧血や妊婦の貧血対策へのKKP効果
- 3) 東大と、対象コミュニティにおける、SBC（FD）+KKPの市場アプローチの影響評価
- (2) 資金調達
- 1) NECを主体とした国際機関連携無償へのサポートでの資金調達の支援、活用
- 2) UNDP（ユナイテッドネーションズディベロッププログラム）活動継続（FDの強化）



**For baby's
Brighter future**

1. 事業目的

食・栄養・健康に課題を抱える地域の人々を対象に、課題解決に取り組む団体への資金助成・ノウハウ提供を行い、対象者の生活の質の向上を通じて、公益に貢献する

2. 中長期事業戦略

- (1) AIN事業の“運営プロセスの改善”
- (2) 団体間や専門家を交えたナレッジやノウハウをシェアする“学びあいの場”の継続
- (3) プラットフォームとなるべく、AIN事務局や委員の“運営基盤強化”
- (4) 団体活動の成果等の“情報発信・産官学の連携”を試みる。

1. 団体支援の強化

(1) 「学びあいの場」：委員の参加を推奨

- ① 事業計画ブラッシュアップ(24/03)
- ② ナレッジシェア会(24/06)
- ③ 完了報告会および公募説明会(24/08)
- ④ 定期面談・現地視察

(2) 運営の強化

- ① 応募要項の見直し：毎年のPDCAを回す
- ② 渡航リスク管理強化：委員の渡航も踏まえ適切なルールを設定
- ③ 新委員の選任:3人の新規外部委員を選任。
多様な視点からの審査・助言が可能となった（24/04）。

(3) 過去の支援事業の調査開始・・・30周年に向けて

4名の新委員が参加（2024/4/1～）



佐藤 都喜子

委員長

名古屋外国語大学 副学長(学生支援)、現代国際学部 教授



遠藤 保雄

委員

東京農業大学客員教授(前仙台大学学長)



小野 郁

委員

味の素株式会社 グローバルコーポレート本部サステナビリティ推進部長



中村 丁次

委員

公益社団法人日本栄養士会代表理事 会長、神奈川県立保健福祉大学 名誉学長



野村 真利香

委員

独立行政法人国際協力機構(JICA) 人間開発部 国際協力専門員



平林 淳利

委員

独立行政法人国際協力機構(JICA) 社会基盤部テクニカルアドバイザー/横浜センター地域共生アドバ



松尾 沢子

委員

NPO法人 国際協力NGOセンター(JANIC)コーディネーター



山本 秀樹

委員

帝京大学 薬学部 環境衛生学研究室 教授



依田 健志

委員

川崎医科大学 公衆衛生学 講師



山崎 一郎

委員

公益財団法人味の素ファンデーション 専務理事



「学びあいの場～ナレッジシェア会」

・ 6/13、6/17

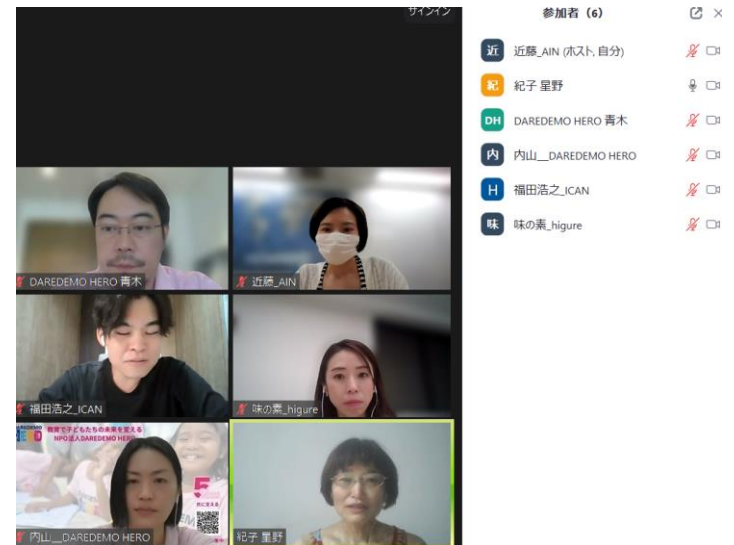
目的：近藤さんの異動報告、日暮さんの紹介

その他：フリーテーマ（団体間情報共有）

参加者は以下の通り；

- ・ アイキャン 福田さん
- ・ DAREDEMOHERO 青木さん、内山さん
- ・ シェア 有田さん
- ・ Colorbath 椎木さん（パワーポリッジ）
- ・ ADIMA 星野さん（役人との付き合い方）
- ・ SANE 杉田さん

事務局：近藤、宇治、日暮



事業完了報告会

日 時： 8月2日（金） 13:30～16:30

開催方法： Zoom Webinar



2024年度活動

時間	内容	登壇者
13:30-13:40	オープニング 開会の挨拶	AIN事務局 食と栄養支援委員会 委員長 佐藤 都喜子先生
13:40-14:10	プロジェクト完了報告① スンバ島農村部に暮らす村人と子どもたちのための栄養不足改善プロジェクト	特定非営利活動法人地球の友と歩む会（ライフ） 古賀 麻美 さま
14:10-14:40	プロジェクト完了報告② スーダンにおける学校菜園を通じた子どものライフスキル向上	特定非営利活動法人ホープフル・タッチ 高田 みほ さま
14:40-14:50	休憩	
14:50-15:20	プロジェクト完了報告③ ガーナにおける地元産動物性タンパク質の加工保存による住民の栄養改善	グラスカッター飼育による農村改革（GIFT,ギフト） 村山 美穂 さま
15:20-15:50	プロジェクト完了報告④ ラオスの美味しい昆虫食普及プロジェクト ～養殖昆虫のフードシステム構築～	特定非営利活動法人 ISAPH（アイサップ） 石塚 貴章 さま
15:50-16:00	クロージング 閉会の挨拶	AIN事務局 味の素ファンデーション 理事長 倉島 薫
16:00-16:30	公募説明会	AIN事務局

2024年度 中間報告面談

【2024年度中間面談】

期間： 11月～12月

目的： 事業の進捗確認および次年度の助成継続確認

今回から面談には「委員」にも同席いただき、タイムリーにアドバイスをいただくことで団体の活動成果がより良いものへとなるように導きたい

➡ 委員の専門性と団体の活動内容を考慮し、1団体につき2名前後の委員同席となるよう事務局にて選定を行い、各委員への同席依頼とスケジュール調整を実施

専門性	委員名
栄養(国際)	中村委員
	野村委員
公衆衛生	山本委員
	依田委員
農業	遠藤委員

専門性	委員名
NGO・NPO団体組織育成	平林委員
	松尾委員
ジェンダー(国際)	佐藤委員
UN(国際的視点)	松尾委員
地域創生	平林委員
事業視点	小野委員
	山崎委員



佐藤 都喜子



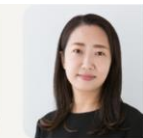
遠藤 保雄



小野 郁



中村 丁次



野村 真利香



平林 淳利



松尾 沢子



山本 秀樹



依田 健志



山崎 一郎

2024年度 中間報告面談

【面談スケジュールと同席委員】

No.	助成期間 (年度)	実施団体	プロジェクト名	日時	同席委員		
1	2024-2026	特定非営利活動法人イクアドルの子どものための友人の会(SANE)	住民と共に開発する学校給食の持続可能な実践モデル	11月12日(火)	中村委員	遠藤委員	野村委員
2	2024	認定NPO法人テラ・ルネッサンス	カラモジャ地域における持続可能な営農を通じた生計向上と栄養改善プロジェクト	11月13日(水)	遠藤委員	平林委員	—
3	2022-2024	NPO法人 DAREDEMO HERO	フィリピン貧困層の実態調査に基づくコミュニティ主体の栄養改善事業	11月14日(木)	佐藤委員	山本委員	—
4	2022-2024	認定NPO法人 アイキャン	フィリピン都市貧困地域におけるゲーミフィケーションを活用した食行動改善	11月29日(金)	佐藤委員	—	—
5	2023-2025	公益社団法人アジア協会アジア友の会	ネパールの国立大学と共同による栄養学科学学生の栄養専門家育成と、キッチンカーによる食生活改善活動事業	11月29日(金)	佐藤委員	中村委員	—
6	2022-2024	特定非営利活動法人 Colorbath	マラウイ 離乳食強化による妊産婦と乳幼児への栄養改善プロジェクト	12月2日(月)	中村委員	山本委員	依田委員
7	2023-2025	ADIMA	ブルキナファソの大豆の学校菜園、「地域で守る子供の健康と将来」	12月2日(月)	遠藤委員	松尾委員	平林委員
8	2024-2026	(認定)特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会	コミュニティで育む自治体のエンパワメントによる子どもの栄養改善プロジェクト	12月3日(火)	野村委員	—	—
9	2022-2024	特定非営利活動法人 HANDS	シエラレオネ国の農村部において、小学校から地域へと育むモリンガを活用した持続可能な栄養改善のしくみ作り	12月13日(金)	佐藤委員	松尾委員	—

2024年度 中間報告面談

NPO認定法人 テラ・ルネッサンス / 活動国 ウガンダ 2024年助成

面談日：11月13日(水) 16:15~17:45

同席委員：遠藤委員・平林委員



事業名：カラモジャ地域における持続可能な営農を通じた生計向上と栄養改善プロジェクト

事業概要：ウガンダで最も貧困・飢餓の問題が深刻なカラモジャ地域において、地域住民が灌漑農業を通して食料生産を行って自給食料を確保し、野菜栽培による販売収入と自家消費量を増加させる。住民が食と栄養に関する知識を習得すること、営農を持続するための組織基盤を強化すること、自家消費食料の増加・収入源確保・栄養意識向上により、地域住民の生計向上と食と栄養状態の改善を目指す。

<補足>

AIN事業申請前に外務省の「日本NGO支援無償連携協力（N連）」にて、灌漑施設をこの地域に作りインフラ支援を行っており、この灌漑施設を使った農業技術支援と栄養改善をAINで取組中

2024年度 中間報告面談

【活動進捗について】

・上半期は、グループ農場での野菜(トウモロコシ、豆、緑豆、トマト、玉ねぎ、なす、スクマウィキ)の生産が出来、来季の作付け用種子としての適切な保存のための研修も実施されている。野菜販売による収入も、全グループにおいて獲得し始めており、下半期も穀物と野菜の作付けを実施予定。



農地でのナスの収穫



収穫後の管理研修



参考：スクマウィキ（ケールの一種）

グループ農場で生産した野菜の販売活動を行う上で必要な売上・費用・利益計算などの基本的なビジネススキル講習を行ったが、対象者のほとんどが識字能力を持たないため活動の記帳・利益計算などの読み書き・計算を必要とする活動において課題があることが判明。

→ 活動に必要な実践的な読み書き・計算を学ぶための基礎教育を週1回村ごとに実施を開始（少しずつグループの記帳に改善がみられる）



村での基礎教育の風景

支援先一覧 (2024)

	実施国	実施団体	プロジェクト名	期間(年度)	24年度助成(百万円)
新規	ウガンダ共和国	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス	カモジャ地域における持続可能な営農を通じた生計向上と栄養改善プロジェクト	2024~2024	1(3)
	エクアドル共和国	特定非営利活動法人エクアドルの子どものための友人の会	住民と共に開発する学校給食の持続可能な実践モデル	2024~2026	3(9)
	カンボジア	(認定) 特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会	コミュニティで育む5歳未満の子どもの栄養改善プロジェクト	2024~2026	2.9(8.8)
継続	ブルキナファソ	ADIMA	大豆の学校菜園が結ぶ地域の連携でみんなで守る子供の健康と将来	2023~2025	3.0
	ネパール	(公社法) アジア協会アジアの友	ネパール国立大学との共同による栄養学科学生の栄養専門家育成とキッチンカーによる食生活改善事業	2023~2025	3.0
	スーダン	(特非)ホープフル・タッチ	スーダンにおける学校菜園を通じた子どものライフスキル向上	2021~2023	3.8
	フィリピン	NPO法人DAREDEMO HERO	社会における貧困支援の一環としての栄養教育活動	2022~2024	3.7
	フィリピン	(特非)アイキャン	フィリピン都市貧困地域におけるゲーミフィケーションを活用した食行動改善	2022~2024	3.7
	シエラレオネ	(特非)HANDS	農村部で子どもから地域住民へと育む持続可能な得言う様改善と食糧の安全保障のしくみ作り	2022~2024	3.7
	マラウイ	(特非)Colorbath	妊産婦健診と離乳食の強化を通じた家族全体の栄養改善プロジェクト	2022~2024	3.0

2024年度 第3回 食と栄養支援委員会（二次審査）

【2025年度新規採択事業】

■採 択①

団 体：特定非営利活動法人AMDA社会開発機構

活 動 国：エル・パライス県

助成期間：2025年度～2027ホンジュラス共和国 年度 3年間

事 業 名：栄養バランスの取れた食習慣の普及を目指した持続可能な学校菜園推進事業

受 益 者：対象の小中高10校の児童・生徒約500人、教師、保護者

プロジェクト目標：対象地域の児童・生徒が栄養バランスの取れた持続可能な食習慣を身につける

世界の元気を育てたい。



2024年度 第3回 食と栄養支援委員会（二次審査）

■採択②

団 体：特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン

活 動 国：ネパール国 パンチカール市

助成期間：2025年度～2027年度 3年間

事 業 名：自家製栄養パウダーを用いた栄養ドリンクによる5歳以上の子どもの食の改善

受 益 者：パンチカール市第1区に居住する 5歳～16歳の子ども50人

プロジェクト目標：対象世帯の子どもの食が自家製栄養パウダーを用いた栄養ドリンクの日常的な
摂取で改善する



2025/3/12



© 2025 The Ajinomoto Foundation



87

2024年度 第3回 食と栄養支援委員会（二次審査）

■採択③

団 体：特定非営利活動法人 エイズ孤児支援NGO・PLAS



活 動 国：ケニア共和国 ホマベイ郡スバ準区

助成期間：2025年度～2027年度 3年間

事 業 名：ケニア共和国貧困家庭の生計向上・栄養摂取状況の改善のための農業支援

受 益 者：HIV陽性者を含む子を持つ貧困家庭350世帯約2000人

プロジェクト目標：HIV陽性者を含む子を持つ貧困家庭が農業の実施を通して栄養に関する知識を身に付け生計と栄養の状態の向上を目指し、その結果、子どもの健康や成長発達にも寄与する



2025/3/12



© 2025 The Ajinomoto Foundation



2024年度 第3回 食と栄養支援委員会（二次審査）

■採択④ ※事業計画ブラッシュアップの条件付き採択

団 体：NPO 法人 ゴーシェア

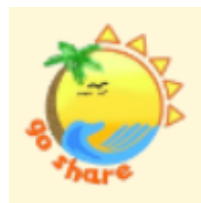
活 動 国：フィリピン国 パンダノン島

助成期間：2025年度～2027年度 3年間

事 業 名：フィリピン最貧国離島スラムの子ども達へ向けた栄養改善プロジェクト

受 益 者：離島の村落に住む児童500名

プロジェクト目標：離島の状況に即した持続可能な食育プログラムをおこなっていくことでコミュニティ全体をエンパワメントし地域の健康意識の向上と子供たちの健康・栄養改善を目指す



go share your smile
子どもたちが自分を生きることのできる世界へ



2025/3/12



© 2025 The Ajinomoto Foundation



89

2024年度 第3回 食と栄養支援委員会（二次審査）

【2024年度審査拡充 継続助成 事業】

団 体：認定NPO 法人テラ・ルネッサンス

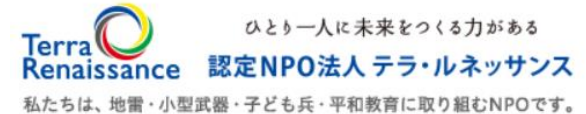
活動国：ウガンダ共和国 カラモジャ地域

助成期間：2025年度～2026年度（追加2年）

事業名：カラモジャ地域における持続可能な営農・養殖を通じた生計向上と栄養改善プロジェクト

受益者：農業グループ 5グループ（計150世帯 約1,050名）

プロジェクト目標：対象地域住民が栄養に関する知識を取得するとともに、営農・養殖によって現金収入と多様な栄養素を含む自給食料を確保することで食と栄養を改善する。また地域住民が営農・養殖を協働組合として持続するための組織基盤を強化する。



2025/3/12



© 2025 The Ajinomoto Foundation



1. 背景（なぜ本企画をやる必要があるのか）

- ・ AINがその活動を開始してから2024年は25周年にあたる
- ・ この機会にこれまでの活動実績や学びを体系的にまとめ、かつ客観的に振り返ることにより、30周年（2029年度）に向けて、国際栄養分野におけるその存在意義をより高めるための契機にしたいと考えた

2. 目的

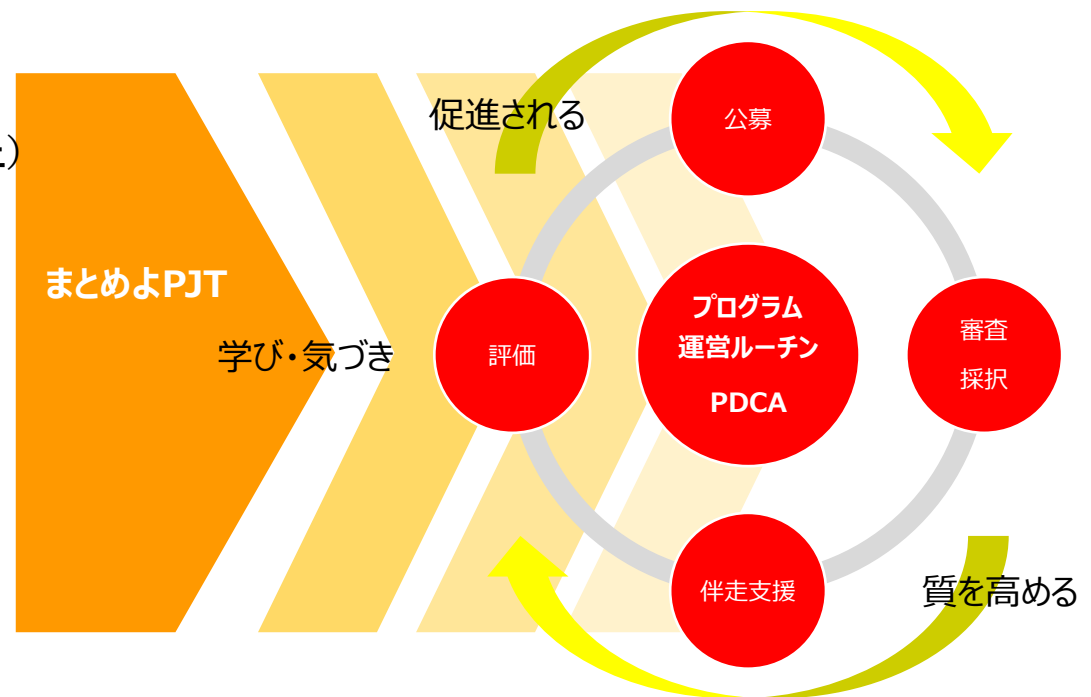
AINプログラムによる国際栄養分野の
課題解決が促進される
(AINの伴走力向上→NGOの活動の質向上)

3. 対象者（=直接的な受益者）

- (1) NGO/NPO
- (2) AINプログラム事務局・支援委員会

4. 実施期間

2024年10月～2030年3月
(今は準備期間)



2. 目的（再掲）

AINプログラムによる国際栄養分野の課題解決が促進される

5. 具体的な目標（現在検討中）

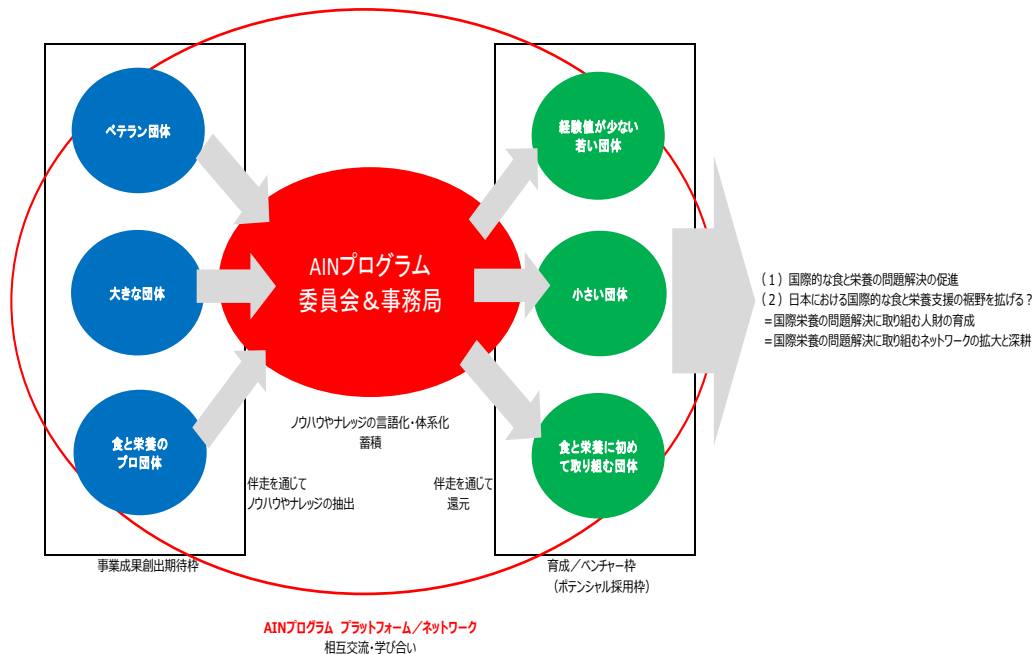
(1) 対象者 NGO・NPO

- 1) 新たに食と栄養の国際支援に取り組む団体が増える
(応募数が年平均●●団体から●●団体へ増加する)

(2) 対象者 AINプログラム事務局・委員会

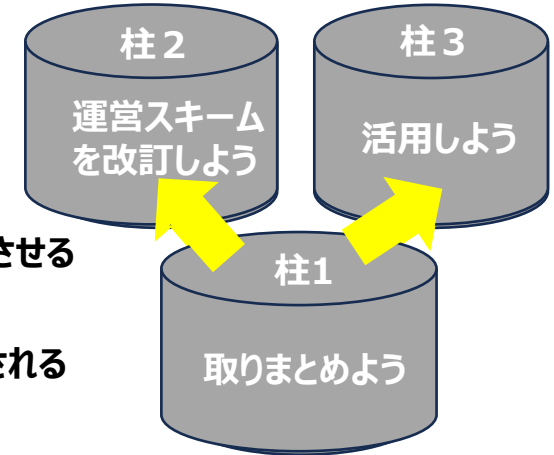
- 1) ネットワーク（人財のプール）が●●名から●●名へ拡大する
- 2) 食と栄養における団体支援の質が上がる
(何で測るか、要検討)

AINプログラムとは？ 議論中のイメージ図（ミッション、ビジョンにも関わる）



6. 目的を達成するための3つの柱

- (1) 柱1「取りまとめよう」
AINプログラムの実績を客観的・体系的に取りまとめ、評価する
- (2) 柱2「運営スキームを改訂しよう」(内部向け)
(1)の結果をふまえプログラム運営上の課題を解決し、団体支援の質を向上させる
- (3) 柱3「活用しよう」(外部向け)
(1)の結果を基にコンテンツを作成したコンテンツが各ステークホルダーに活用される



7. 基本方針

- (1) 長期間に渡るプロジェクトであることを鑑み、各柱ベースでのマネジメントを行うこととする。
柱1終了後には柱2の計画を、また柱2の終了後には、柱3の計画を見直し、新たなニーズが特定された場合、あるいは実施体制等を変更する必要性が生じた場合には、それらを踏まえて当初計画の変更を行う。
このような柔軟性をもたせたプロジェクトマネジメントにより、プロジェクトが中断するリスクを回避する
- (2) プロジェクトがその目標達成に向けて順調に進捗しているか、目標達成までの方向性が妥当であるか等を定期的にモニタリングするための検討会を開催する
- (3) 支援団体（NGO/NPO）を巻き込んだ参加型のプロジェクト実施とする。その際には、「支援提供者として支援団体から学ぶ」姿勢に徹する。実施に際しては、必要に応じてポジティブ・デビアンسやアクションリサーチ等の活用も検討する

2024年度レビュー

1. AIN長期レビュー(1999-2024年度)

1999年より「食を通じた栄養改善をテーマ」として、団体の実践活動を助成することで、現地のサステナブルな仕組み作りを支援すると共に、専門家の委員による助言や現地視察を通じて、団体及び現地の状況に柔軟に対応し、団体の成果創出のために伴走を行ってきた。26ヶ国以上の地域の受益者に貢献してきた実績と信頼をもつ他に類を見ないプログラムであり、2024年度には25年目を迎えた。

2. AIN年間レビュー(2023-2024年度)

1) 団体支援の強化

①「学びあいの場」：事業計画ブラッシュアップ(24/03) 24年度開始3団体の事業計画の課題修正・計画を具体化し**団体と事務局の認識を一致**。

②ナレッジシェア会(24/06)ファシリテート等を行い、支援中および卒業団体が繋がり、ナレッジ・ノウハウが共有された。

③ 完了報告会および公募説明会(24/08)

4団体の成果発表の見える化・整理を支援し、参加者から質問を受け、AIN公募の理解が深まった。

2025年度目標

1. 運営基盤強化

- (1) 公募枠・審査設定の見直し
申請条件、新規の募集枠設定(育成枠やジョイントベンチャー枠等)、審査時の評価視点等について見直し・検討を行い、2026年度応募要項に組み込む
- (2) 団体評価の標準化
事務局と委員が定期面談、現地視察時に使用可能な「評価シート」を作成することで、実施者個人視点の評価から組織の客観的評価に変える
- (3) AINに関連する団体情報、関係者連絡先、応募実績等の一覧を作成し、公募申請や各種活動時に活用する。

2. 団体支援の強化

- (1) 定期面談、現地視察、学びあいの場の実施の継続
定期面談：中間報告、年度報告、完了報告(支援完了団体のみ)
現地視察：現地視察未実施団体、新規団体
学びあいの場：ナレッジシェア会でのナレッジの整理・蓄積・展開、完了報告会・公募説明会、事業計画ブラッシュアップ会

2024年度レビュー

④ 定期面談・現地視察

初めての試みとして委員同席で団体との進捗報告面談と、現地視察（1団体）を実施、正確な現状把握とタイムリーな課題の発見・助言が進められた。

2) 運営の強化

① 応募要項の見直し 応募要項を委員と共に見直し、AINの求める事業が団体にとってより明確になった（24/04臨時委員会）。

② 渡航リスク管理強化 現地視察時にマラリア感染が発生したので、JICA/トラベルクリニック/委員/理事に意見聴取し、「**海外渡航時の安全確認規程**」を作成し、現地視察（24/02）に試行・確認することで安全管理を強化した（24/04）。

③ 新委員の選任 3人の新規外部委員を選任し、多様な視点からの審査・助言が可能となった（24/04）。

3) 30周年に向けて

過去の支援事業の調査25年にわたるAIN事業を振り返り、団体や事務局にとって、未来に向けより有意義な事業とするために、**AINの30周年(2029)向け記念企画の実施準備**を開始した。

2025/3/12

2025年度目標

- (2) 定期面談時への委員同席化により団体との接点を増やすことで、課題や悩み等へタイムリーな助言を提供する。
- (3) 「学びあいの場」のナレッジを言語化、より多くの団体に共有できるよう整備を行い、団体の活動基盤の底上げに貢献する。

3. 食と栄養支援委員会の活性化

年2回の定期委員会の他に臨時委員会を開催し、公募審査や団体支援における課題点等の改善策を議論する

4. 学術・広報連携

- (1) 支援団体の学会発表や論文化への働きかけや支援を行い、団体活動のエビデンス化に寄与する
- (2) HP内の“プロジェクト紹介”部分の構成変更を行い、支援終了団体が作成した「完了報告レポート」へのサイトアクセスを向上させ、AIN事業の理解と興味を拡げる

5. AINまとめようPJT

- (1) 検討チームの人選と体制構築、役割分担の決定、進行計画の策定、契約の締結等
- (2) 支援実績のある代表団体へのアンケート・インタビュー・ワークショップ等を実施しノウハウ抽出を開始する
- (3) 外部専門家による団体の事業計画・活動報告書等の分析、アンケート、インタビューの実施（評価準備と、今後に向けた改善ポイントの抽出）を開始する⁹⁵

2025年度支援先一覧

	実施国	実施団体	プロジェクト名	期間(年度)
新規	ホンジュラス共和国	特定非営利活動法人 AMDA社会開発機構	栄養バランスの取れた食習慣の普及を目指した持続可能な学校菜園推進事業	2025～2027
	ネパール	特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン	自家製栄養パウダーを用いた栄養ドリンクによる5歳以上の子どもの食の改善	2025～2027
	ケニア	特定非営利活動法人 エイズ孤児支援 NGO・PLAS	ケニア共和国貧困家庭の生計向上・栄養摂取状況の改善のための農業支援	2025～2027
	フィリピン	NPO 法人 ゴーシェア	フィリピン最貧国離島スラムの子ども達へ向けた栄養改善プロジェクト	2025～2027
継続 再支援	ウガンダ共和国	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス	カラムジャ地域における持続可能な営農を通じた生計向上と栄養改善プロジェクト	2024～2024
継続	エクアドル共和国	特定非営利活動法人エクアドルの子どものための友人の会	住民と共に開発する学校給食の持続可能な実践モデル	2024～2026
	カンボジア	(認定) 特定非営利活動法人 シェア = 国際保健協力市民の会	コミュニティで育む5歳未満の子どもの栄養改善プロジェクト	2024～2026
	ブルキナファソ	ADIMA	大豆の学校菜園が結ぶ地域の連携でみんなで守る子供の健康と将来	2023～2025
	ネパール	(公社法) アジア協会アジアの友	ネパール国立大学との共同による栄養学科学士の栄養専門家育成とキッチンカーによる食生活改善事業	2023～2025
	スーダン	(特非)ホープフル・タッチ	スーダンにおける学校菜園を通じた子どものライフスキル向上	2021～2023

事務局運営予定（2025年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
公募関連			公募期間			第一次審査 (書類)	審査集計	結果通知	第二次審査 (面談)	支援団体決定 (上旬)		契約締結
団体支援 ①契約・説明会等	助成金入金									新規団体合同 説明会		
団体支援 ①学びあいの場			ナレッジシェア 会	完了報告会 公募説明会							事業計画ブラッ クアップ会	
団体支援強化 ②定期面談		FY2024 報告面談	FY2024 完了報告面談					FY2025 中間報告面談				
団体支援強化 ③現地視察	団体・委員との調整にて決定											
食と栄養支援委員会 (臨時委員会)				第1回委員会					第2回委員会			
学術・広報連携	①学会参加・発表・投稿 ②30周年記念企画遂行											

1. 事業目的

国家戦略に基づき、栄養の正しい知識・行動を伝える栄養人材（管理栄養士など）が育成され、社会で活躍できるような場と制度が構築され、国民の健康状態が向上されるという目標達成を目指すベトナムの国家機関の運営を費用/ノウハウ面で支援する。

2. 中長期事業戦略（達成するためのスキーム） ⇒ **今までのものを掲載**

ベトナムの国家機関および日本の栄養専門家とコラボレートしながら、臨床栄養ではNSTのモデル病院を確立する。学校栄養では小学校で体系的な栄養教育体制を確立する。NINとともに共催するVINEPワークショップでは、各活動をベトナムの行政・病院・学校にPRし、栄養制度創設を働きかける。これらの活動を通じて、栄養士の配置が促進されること、将来的な国民の栄養リテラシーおよび栄養状態の向上を達成する。

VINEP : Vietnam Nutrition System Establishment Project

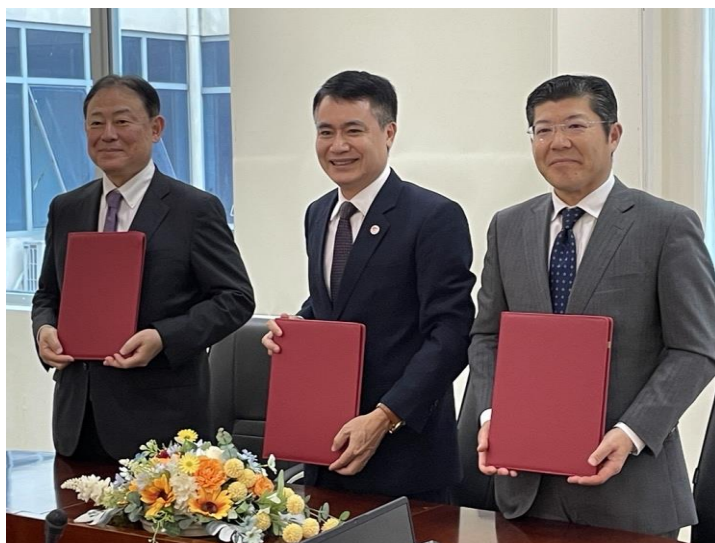
ベトナム栄養制度創設プロジェクト（VINEP）

2024年10月24日 ベトナム国立栄養研究所（NIN）公式訪問

ベトナム国立栄養研究所（NIN）でのミーティングを実施。倉島理事長よりVINEP終了の説明。
出席者：

Duong所長、NIN内部関係者<ベトナム栄養研究所>
南良社長、Van Trung役員<ベトナム味の素社、AVN>
倉島理事長、山崎専務理事<味の素ファンデーション、TAF>

2025年6月を持ってVINEPは終了するが、今後、ベトナム栄養研究所（NIN）のAJICOグループの窓口はベトナム味の素社に一本化することで合意。



倉島理事長(TAF) Duong所長(NIN) 南良社長(AVN)



会議参加された皆さまとの記念撮影写真

2. 2024年度基本方針

(1)臨床栄養

23年度の活動で、E病院とKUHP（京都大学病院）の間で計画していたNST（ニュートリションサポートチーム）研修は、E病院の要望がVINEPの事業目的に合致しなかったため実施しない。同時に、HMU（ハノイ医大）卒業生8人がK病院の栄養管理の中心メンバーとして活躍しているというVINEPの成果が確認できた。将来、K病院が模範となり、そこに勤務する栄養士が臨床栄養のリーダーとなることが期待される。これまでのVINEPの成果により自立化の見込みが立ったので、臨床栄養領域の活動は終了する。

(2)学校栄養

- 1) 23年度の活動で、MOET（教育科学省）/MOH（保健省）/NIN（栄養研究所）の認可の下、AVN（ベトナム味の素）のSMP実施を確認できた。直接的な支援は不要と判断し、VINEPは学校給食領域の活動を行わない。
- 2) 学校における栄養教育の必要性を理解したMOET（教育科学省）/VNIES（教育科学院）が、体育のカリキュラムに日本式の栄養教育を入れる試みとしてSNP（スクールニュートリションプロジェクト）が実施された。SNPの結果に基づいて、学校栄養教育の重要性の理解を促進・拡大するためのエビデンス作りを支援する。
- 3) 栄養教育の指導書作成: 日本式の栄養教育を小学校に導入するSNP（VNIES<教育科学院>/UNP<新潟県立大学>）の取り組みを加速するため、初期段階限定の支援を検討。

(3)NINとの関係

VINEP活動について、2023年10月に棚卸のWorkshopを実施し、現場での成果も出始めていること、ベトナム行政側も独自の動きを開始していることから、2025年でNINとのSA（スポンサー契約）を終了する。

3. 2024年度目標 【要約】

1. 臨床栄養 ⇒ 継続フォロー中

武庫川女子大・弊教授と委託研究契約を締結(途上国へのNST(ニュートリションサポートチーム)導入・運営にあたっての必要条件の検討)

2. 学校栄養 ⇒ 継続フォロー中

(1) SNP (スクールニュートリションプロジェクト) の論文化

(2) 栄養教育の指導書作成

TAFの役割 (共通認識を作るための場の設定と事業費提供)

3. NIN (栄養研究所) との関係

TAFとNINを中心とした契約をいったん終了する。 ⇒ 契約は終了した

※2024年度中にVINEPの今後のあり方決定のための検討を行う。 ⇒ VINEPは終了